市道丸山町公園地線拡幅・市道丸山町大江神社西通り線新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

中津城下町遺跡
25・26次調査

中津市文化財調査報告　第76集

2016
中津市教育委員会

中津城下町遺跡　25・26次調査
―市道丸山町公園地線拡幅・市道丸山町大江神社西通り線新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告―
中津市文化財調査報告　第76集
2016　中津市教育委員会

市道丸山町公園地線拡幅・市道丸山町大江神社西通り線新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

中 津 城 下 町 遺 跡
25・26次調査

中津市文化財調査報告　第76集

2016
中 津 市 教 育 委 員 会

序

私たちのまち、中津市は長い歴史を持っています。市内には往時を偲ばせる遺跡が数多く残っております。今回調査報告書を刊行いたします、中津城下町遺跡もこうした遺跡の一つです。中津城跡の周りに広がる中津城下町の整備は、中津に入部した黒田官兵衛孝高によって先鞭が付けられました。それから約260年間、細川氏、小笠原氏、奥平氏によって整備拡張が行われ、その後の中津市の発展につながっています。

中津市教育委員会では市街地の発展に伴って、開発行為の際は文化財保護のための発掘調査を行い、市民の皆さまに文化財の価値を伝えるため、遺跡の保存・整備についても力を入れております。

最後になりましたが、今回の調査の際は、近隣にお住いの方々に大変ご迷惑をおかけしました。また、調査にあたっては、多数の方々にご指導を頂きました。御礼申し上げますとともに、これからも中津市の埋蔵文化財行政にご理解ご協力頂きますようお願い申し上げます。

平成28年9月30日

中津市教育委員会
教育長　廣　畑　　功

例　　言

一、本書は大分県中津市教育委員会が平成25・26年度に実施した中津城下町遺跡25・26次調査の発掘調査報告書である。

一、発掘調査は荻が担当した。本書の執筆、編集は丸山が行った。

一、現場作業は下記の皆さんの協力による。

石塔美代子、井上ミツル、今永夏樹、太田博泰、奥中廣雪、小野照行、小野礼子、川口政代、金崎ミチ子、武内義人、田中政恵、徳田清吾、松本和彦、宮津しのぶ、山本高亮、若木和美

一、整理作業、図面浄書は下記の皆さんの協力による。

粟田真弥、岩崎弘子、奥塚恭子、吉上かおり、高榎裕美、土橋厚子

一、出土遺物の実測、デジタルトレース、写真はめ込み業務は㈱アーキジオに委託した。

一、遺構の略号は、土坑＝ＳＫ、溝状遺構＝ＳＤ、井戸跡＝ＳＥ、焼土坑＝ＳＦＫとする。

目　　次

第１章　はじめに …… 1
　　1　調査の経過 …… 1
　　（1）25次調査 …… 1
　　（2）26次調査 …… 1
　　2　調査体制 …… 2
　　3　過去の調査歴 …… 3

第２章　位置と環境 …… 4
　　1　地理的環境 …… 4
　　2　歴史的環境 …… 5

第３章　調査成果 …… 8
　　1　25次調査 …… 8
　　2　26次調査 …… 31

第４章　まとめ …… 43

写真図版 …… 47

挿　図　目　次

第１図　調査区位置図 …… 1
第２図　遺跡位置図 …… 4
第３図　25次調査区上層遺構全体図 …… 11
第４図　25次調査区中層遺構全体図 …… 13
第５図　25次調査区下層遺構全体図 …… 13
第６図　調査区東壁土層図・調査区 …… 15
第７図　ＳＫ-４平・断面図 …… 16
第８図　ＳＫ-５平・断面図 …… 16
第９図　ＳＫ-９平・断面図 …… 16
第10図　ＳＫ-15平・断面図 …… 17
第11図　ＳＫ-18平・断面図 …… 17
第12図　ＳＫ-43平・断面図 …… 18
第13図　ＳＫ-47平・断面図 …… 18
第14図　ＳＫ-48平・断面図 …… 19
第15図　ＳＥ-１平・断面図 …… 20
第16図　ＳＥ-２平・断面図 …… 21
第17図　石列平・断面図 …… 21
第18図　ＳＫ-22平・断面図 …… 22
第19図　ＳＫ-23平・断面図 …… 22
第20図　ＳＫ-24平・断面図 …… 22
第21図　ＳＫ-49平・断面図 …… 22
第22図　25次調査出土図化遺物１ …… 26
第23図　25次調査出土図化遺物２ …… 27
第24図　25次調査出土図化遺物３ …… 28
第25図　25次調査出土図化遺物４ …… 29
第26図　25次調査出土図化遺物５ …… 30
第27図　26次調査区遺構全体図 …… 33
第28図　ＳＫ-２平・断面図 …… 35
第29図　ＳＫ-４ａ平・断面図 …… 36
第30図　ＳＫ-４ｂ平・断面図 …… 36
第31図　ＳＫ-７平・断面図 …… 36
第32図　ＳＫ-12ｃ平・断面図 …… 37
第33図　ＳＫ-13平・断面図 …… 37
第34図　ＳＫ-17平・断面図 …… 38
第35図　ＳＫ-22平・断面図 …… 38
第36図　26次調査出土図化遺物１ …… 41
第37図　26次調査出土図化遺物２ …… 42
第38図・第39図　絵図と調査区の位置関係 …… 43

表　目　次

表１　過去の中津城下町遺跡発掘調査一覧 …… 3
表２　25次調査遺構観察表 …… 23
表３　25次調査区図化遺物観察表 …… 24
表４　26次調査遺構観察表 …… 39
表５　26次調査図化遺物観察表 …… 40

写真図版目次

写真図版１　25次調査区北半（上層）北から …… 47
写真図版２　25次調査区南半（中層）南から　25次調査区南半（下層）南から …… 48
写真図版３　ＳＫ-47完掘（北から）　ＳＥ-１堆積状況（南から） …… 49
ＳＦＫ-１堆積状況（西から）　ＳＥ-２北壁（南から）
ＳＫ-48完掘（南から）　石列（東から）
写真図版４　26次調査区西半（南から）　26次調査区東半（南から） …… 50
ＳＫ-４ａ堆積状況（南から）　ＳＫ-４ｂ堆積状況（東から）
ＳＫ-７堆積状況（南から）　ＳＫ-22堆積状況（東から）

第１章　はじめに

１　調査の経過

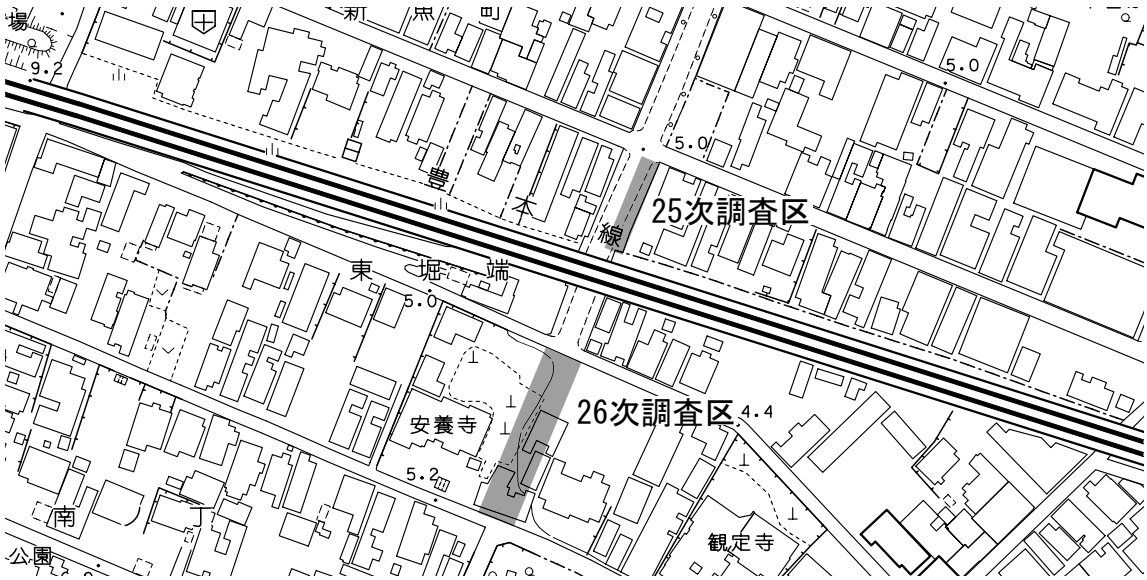
中津市では、郷土の良さを活かすため旧中津城下町地域について城下町風情のあるまちづくりに力を入れ、道路整備についても景観を重視した高質化を行っている。

（１）25次調査

平成26年２月３日、中津市1930番地から2393番地２で道路拡幅についての「埋蔵文化財発掘の通知」が中津市長より提出された。これを受けて大分県教育委員会教育長から平成26年２月14日に「発掘調査」で埋蔵文化財の発掘についての通知が出された。中津市教育委員会では同日、遺跡確認調査を行い、本発掘調査の必要性を認めた。本発掘調査は中津市教育委員会文化財課が、平成26年３月17日から４月25日の期間行った。

（２）26次調査

平成26年３月５日、中津市2041番地から2042番地で道路新設についての「埋蔵文化財発掘の通知」が中津市長より提出された。これを受けて大分県教育委員会教育長から平成26年３月14日に「発掘調査」で埋蔵文化財の発掘についての通知が出された。中津市教育委員会では３月17日に遺跡確認調査を行い、本発掘調査の必要性を認めた。本発掘調査は中津市教育委員会文化財課が、平成26年５月１日から６月30日の期間行った。



第１図　調査区位置図（S =1/2,500）

2　調査体制

調査体制は以下のとおりである。

平成25、26年度（本発掘調査）

調査主体　　中津市教育委員会
調査責任者　廣畑　　功（中津市教育委員会　教育長）
調査事務　　川西　州作（中津市教育委員会文化財課　課長　25年度）
　　今津　時昭（中津市教育委員会文化財課　課長　26年度）
　　高崎　章子（　　同　　文化財係　係長）
　　田中布由彦（　　同　　管理係　　係長　25年度）
　　宇野　真理（　　同　　管理係　　係長　26年度）
　　竹内　奈央（　　同　　管理係　25年度）
　　大竹　竜聖（　　同　　25年度）
　　河野さくら（　　同　　管理係　26年度）
担　　当　　荻　　幸二（　　同　　文化財係　嘱託）

平成27年度（整理作業）

調査主体　　中津市教育委員会
調査責任者　廣畑　　功（中津市教育委員会　教育長）
調査事務　　平原　　潤（中津市教育委員会文化財課　課長）
　　高崎　章子（　　同　　文化財係　係長）
　　大森　　建（　　同　　管理係　　係長）
　　吉川　奈央（　　同　　管理係）
　　長尾　淳平（　　同　　管理係）
担　　当　　丸山　利枝（　　同　　文化財係）

平成28年度（報告書編集）

調査主体　　中津市教育委員会
調査責任者　廣畑　　功（中津市教育委員会　教育長）
調査事務　　高尾　良香（中津市教育委員会社会教育課　課長）
　　高崎　章子（　　同　　文化財室　室長）
　　花崎　　徹（　　同　　文化財係　主幹）
　　大森　　建（　　同　　管理・文化振興係　主幹）
　　長尾　淳平（　　同　　管理・文化振興係）
担　　当　　丸山　利枝（　　同　　文化財係）

3　過去の調査歴

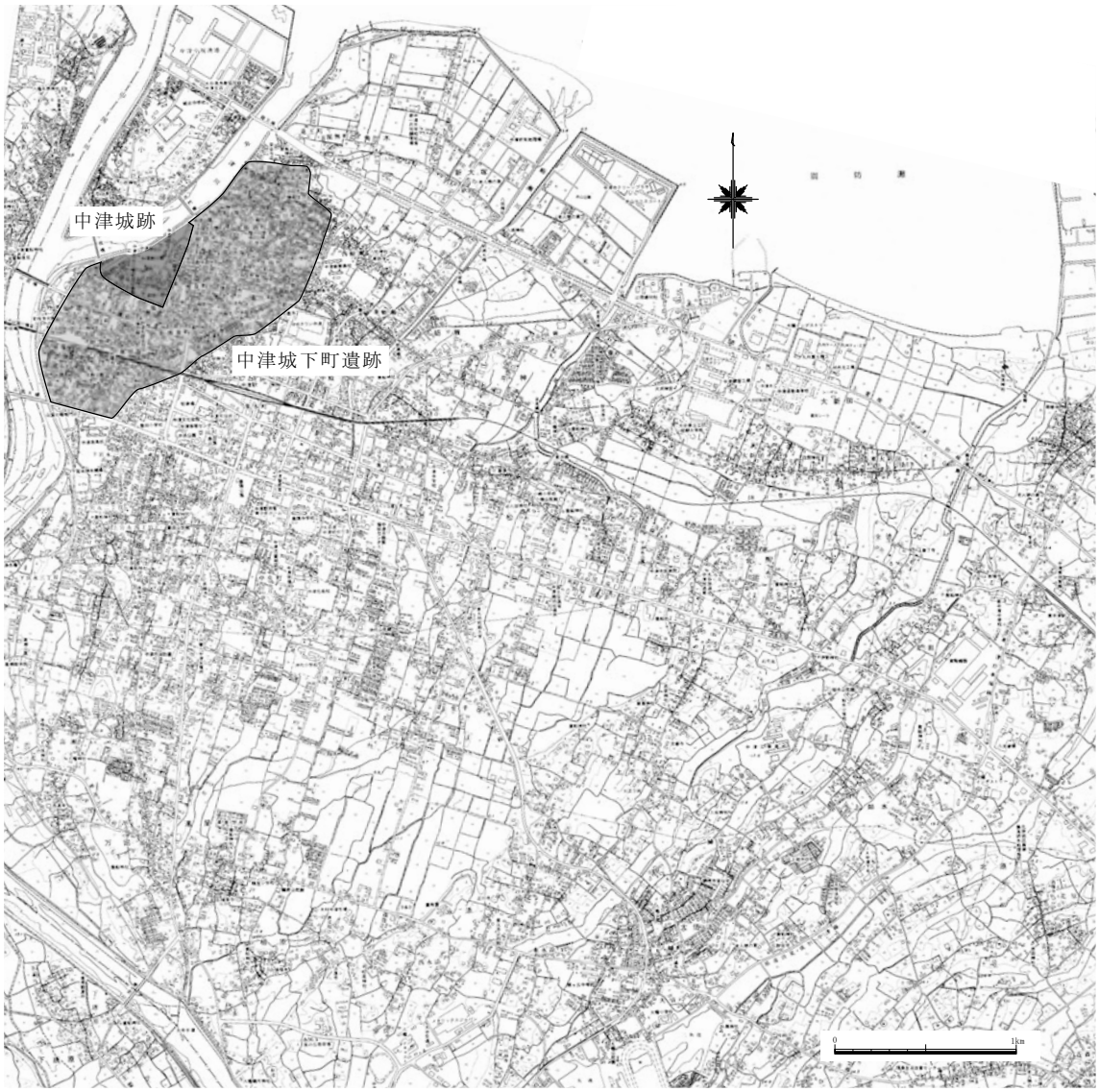
表１　過去の中津城下町遺跡発掘調査一覧

番号	所在地	調査期間	調査内容		調査原因	報告書
			遺構・遺物	時代		
1	中津市1366-1	1991/12/15～1992/2/20	溝・土坑、近世陶磁器・瓦	近世	図書館建設	1992「藩校進脩館跡」中津市教委第11集
2	中津市1468	1993/2/1～3/31、1994/7/14～1995/3/31	石垣・石列・土坑、土師器・陶磁器・木製品・瓦	17C・18C	公民館建設	1998「御用屋敷遺跡」中津市教委第21集
3	中津市1385他	1997/8/20～1998/3/20	柱穴・溝・井戸・土壙	17～19C	県道改良	2004「中津城下町遺跡殿町地区」中津市教委第32集
4	中津市1393他	1998/6/1～1999/3/19	柱穴・溝・井戸・土坑	近世陶磁器・土師器・瓦	県道拡幅	2004「中津城下町遺跡殿町地区」中津市教委第32集
5	中津市1405他	1999/8/1～12/22	土坑・柱穴・石列・溝	近世陶磁器・土器・瓦・銅製品	県道拡幅	2004「中津城下町遺跡殿町地区」中津市教委第32集
6	中津市1424	2002/9/4～9/11	土坑群・井戸	近世	病院建設	2004「中津城下町遺跡殿町奥平孫次郎屋敷跡」中津市教委第33集
7	中津市1433-1他	2003/10/1～2004/2/18	廃棄土坑・御水道	近世	市道拡幅	
8	中津市1843他	2004/6/1～10/15	土坑・石列・井戸	近世	道路拡幅	
9	中津市828-2他	2007/1/11	外掘？	不明	集合住宅建設	
10	中津市1431-1	2007/1/18	城下町	江戸	医療施設建設	
11	中津市2196-2他	2008/5/1～5/21	土坑・石列	近世	市道新設	2014「中津城下町遺跡11次調査区」中津市教委第68集本報告
12	中津市1441-2	2009/10/20～11/2	土坑・井戸	近世	市営住宅建設	
13	中津市904-3他	2009/8/31～9/10	土坑・井戸	近世	市道拡幅	
14	中津市575	2009/9/9～2010/3/31	井戸・溝状遺構	近世	確認調査	2010「中津城下町遺跡竹下義兵衛屋敷」中津市教委第51集
15	中津市1888番地5	2010/10/6～11/4	土坑・井戸・溝	陶磁器	リハビリ施設建設	2012「中津城下町遺跡新魚町地区」第55集
16	中津市1437-2他	2010/12/8	土坑	時期不明	倉庫建設	
17	中津市1005番地	2012/8/6～8/17	土坑	陶磁器（18～19C）	個人住宅建設	
18	中津市1436番地	2012/8/16～11/30	土坑・井戸・溝	陶磁器（17C～）	保育園建て替え	2014「中津城下町遺跡第18次調査」中津市教委第69集
19	中津市987番地	2012/11/12～12/25	土坑・溝	陶磁器（17～19C）	福祉施設建設	2014「中津城下町遺跡寺町地区」中津市教委第65集
20	中津市801	2012/12/19	溝状遺構・土坑	近世	戸建賃貸住宅建設	
21	中津市1828	2013/3/11～現在	石敷・礎石	陶磁器（18C以降）	公共建物	未報告
22	中津市1178番地	2013/4/23～4/25	土坑	陶磁器（18C後半～19C）	個人住宅建設	未報告
23	中津市1094番地	2013/4/30～5/2	土坑	陶磁器（18C以降）	個人住宅建設	未報告
24	中津市1720番1他	2014/2/24/～3/14	土坑・溝	陶磁器（18C以降）	集合住宅建設	未報告
25	中津市1930番他	2014/2/14（試掘）	土坑	陶磁器（18C以降）	市道建設	未報告
26					市道建設	未報告
27	中津市1516番1	2014/7/11	土坑	陶磁器（18C以降）	集合住宅建設	
28	中津市2017-2他	2014/3/	土坑・溝	陶磁器（18C以降）	道路新設・拡幅	
29	中津市1799-2他	2015/4/9～7/11	土坑・背割水路・石列	陶磁器（17C前半～18C後半）	病院施設建設	未報告
30	中津市蛭子町3丁目34外2筆	2015/4/9	堀上層埋土	陶磁器（幕末～近代）	店舗建設	
31	中津市1427-2他	2015/5/28	土坑・陶磁器		病院施設建設	未報告
32	中津市2273-2外	2015/9/4	土坑・溝	弥生・古墳・近世	市道建設	未報告
33	中津市2502他	2015/11/12	溝・土坑	近世末	市道建設	
34	中津市1369番地他	2015/10/26～12/22	土坑？	近世？	図書館駐車場	2016「市内遺跡」概報

第２章　位置と環境

１　地理的環境

英彦山に端を発する山国川は、旧下毛郡の山地を縫って流れ、中流域では三光佐知付近で河岸段丘、三口付近を扇頂とする扇状地を形成し、最下流では自然堤防と三角州を形成する。中津城下町遺跡が立地するのは山国川の最下流にあたる。中津城が山国川沿いの高燥な自然堤防に立地しているのに対して、その城下町は主に低湿な環境に形成されている。しかし城下町の中でも微地形が存在し、山国川沿いは先述の自然堤防が発達しやや高燥な環境にあり、周防灘に近づくにつれて低湿な環境になる傾向がある。こうした環境の差は、城下町の形成過程や土地利用を知るうえで重要な視点である。



第２図　遺跡位置図（S＝1/40,000）

２　歴史的環境

中津城下町の整備は、中津城を築いた黒田如水によって着手された。黒田氏以前にも当地には「丸山の城」一説に「小犬丸城」という城があり、如水はこの城を修造したと「中津記」にある。（文献①）実際に中津城内の発掘調査成果として、黒田氏以前の16世紀代の城館跡が見つかっている。（文献②）しかし黒田氏以前、城下に商業、工業の場としての「町」がどれだけの規模で存在していたかは不明である。

（１）絵図からみた中津城下町

中津城と城下を描いた絵図をもとに、城下町の変遷を見てみよう。（文献③）

Ⅰ「黒田如水縄張図」（写真１）

黒田如水の時代の中津城を描いたといわれている絵図は現在、７点が確認されている。絵図中堀の内には、京町、博多町、町、一町、二町といった文字が、堀の外には「侍屋敷町屋寺もあり」と記入されている。町割の区画は描かれない。

Ⅱ「中津城総曲輪絵図」（小笠原期の絵図 1663年以前）

姫路市の個人所蔵の絵図である。押し紙の一枚に寛文３（1663）年の年号がある。町の表記は「京町」「姫路町」「寺町」「侍町」「新魚町」「諸町」「古博多町」「米町」「魚町」「塩町」「桜町」「留守居町」「弓町」「松頭町」「カコ町」「鷹匠町」「豊後町」「鉄砲町」「持筒町」「中間町」「堀川町」「角木町」、外堀の北に「弓町」「下小路町」が描かれている。外堀の南には金谷上ノ丁、南ノ丁あたりまでが描かれている。蛭川は嶋田口付近から上流は描かれていない。

Ⅲ「中津城下絵図」（奥平期の絵図 1838 ～ 1843年、写真２）

福澤諭吉の兄である福澤三之助が現在の宅跡に記されていることや、他藩士の氏名から、1838（天保９）年～ 1843（天保14）年の間に作成されたものと考えられている。この絵図の特徴として、上級武士だけではなく組屋敷に住んでいた藩士の名、道路幅まで細かく記録されていることが挙げられ、幕末の中津城下町を知るうえで貴重な資料である。上述の外堀の中の町割は「中津城総曲輪絵図」と大きな違いはないが、北東隅に「よしはら」と表記された湿地が田として利用され、外堀の南側は金谷森ノ丁、古金谷が拡張されている。また、蛭川の上流部分が古金谷付近まで描かれている。

（２）町割の時期と背割下水

旧中津城下町では、生活排水を流す排水口として今でも背割下水が利用されている場所がある。現在使用されている背割下水は、江戸時代のものとほぼ重複してつくられていることが発掘調査で確認されている。背割下水の水路網は、城下町の町割の線と一致することから、城下町整備の際に町を区画する機能もあったと考えられている。（文献④）

一方、背割下水に先行する時期の溝が19次、29次調査で発見されている。（19次文献⑤、29次未報告）これらの溝は、調査区の最下層で検出された東西、南北方向の直線的な溝で、16世紀末～ 17世紀初頭の遺物を含むことから、近世初頭の屋敷区画溝である可能性がある。29次調査では、背割下水のほぼ真下で検出している。中津城下町の形成過程を論じるうえで重要な意味を持つ遺構であり、これからの調査例の蓄積を待ちたい。

参考文献
①山本艸堂校訂「中津記」『中津古文書』1935
②中津市教育委員会『大池南遺跡　沖代地区条里跡矢永地区・五唯地区　中津城本丸南西石垣（Ⅲ）2003年度中津地区遺跡群発掘調査概報（ＸＶ）中津市文化財調査報告　第34集』2004
③中津市教育委員会『中津城跡２　中津市文化財調査報告　第53集』2011
④中津市教育委員会『中津城下町遺跡新魚町地区　村上記念病院通所リハビリテーション施設増改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　中津市文化財調査報告　第55集』2012
⑤中津市教育委員会『中津城下町遺跡・寺町　寺町クリニック福祉施設建設に伴う発掘調査　中津市文化財調査報告　第65集』2013

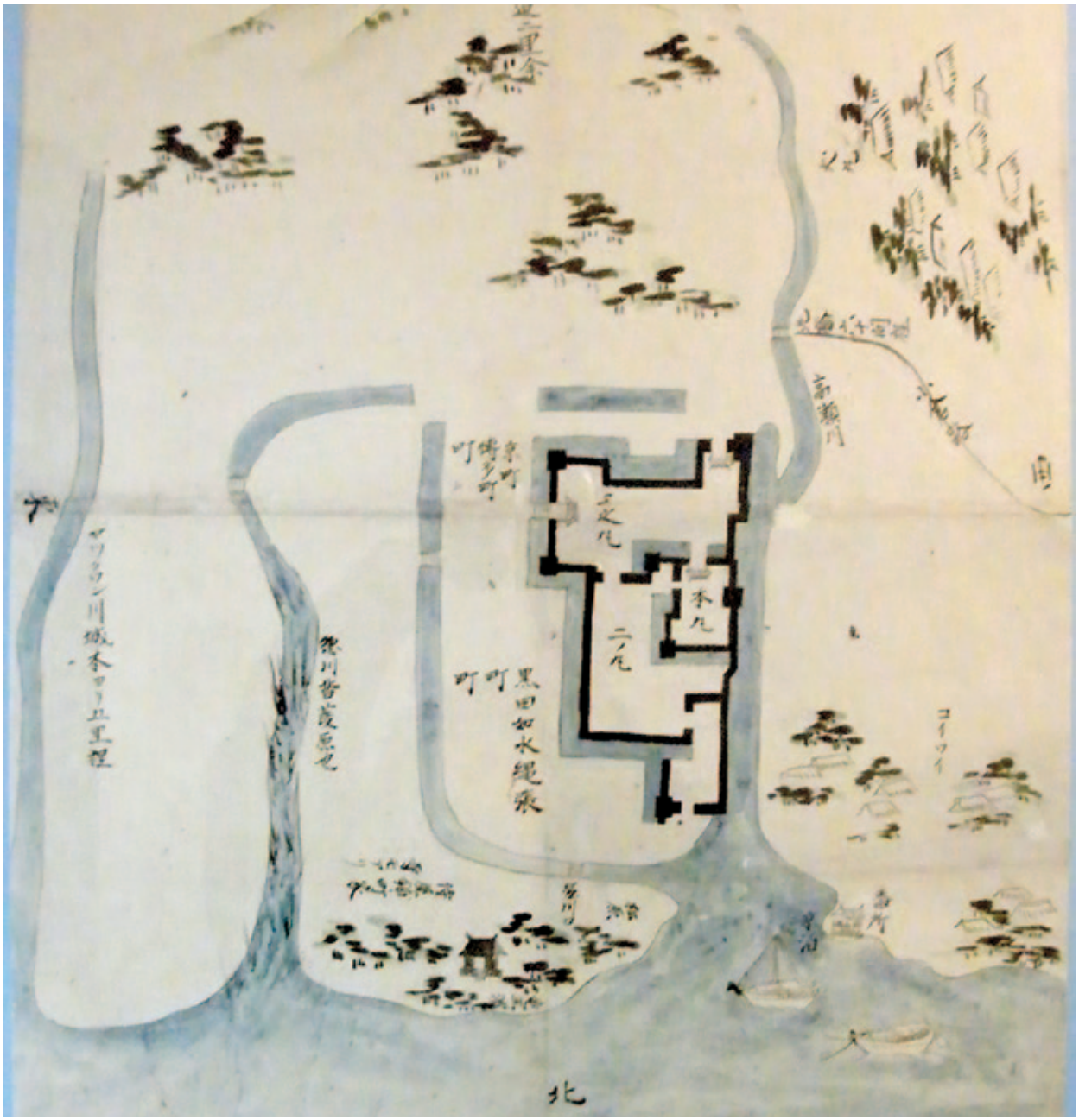


写真１　「黒田如水縄張図」

北
東
南
西
此色侍屋鋪
此色町人屋鋪
此色紙屋鋪
此色知行寺
此色宮
此色寺
此色町
此色山伏
此色年貢地
此色下ノ人者
此色別屋鋪

写真２　「中津城下絵図」

第３章　調査成果

１　25次調査

（１）調査の概要（第３～６図）

市道の拡幅部分について調査対象地とし、江戸時代の整地層を３面（第６図）確認した。遺構は廃棄土坑、火災処理土坑、柱穴などで、遺物は陶磁器・土師器などが出土した。検出面とした面の標高は4.1 ～ 4.2ｍである。調査面積は85㎡、遺物の総量はコンテナ17箱である。

（２）おもな遺構

（上層検出遺構）

ＳＫ－４（第７図）

長軸1.16ｍ、短軸1.06ｍを測り、平面が楕円形を呈する土坑である。底面の標高は3.96ｍである。柱穴に切られる。陶器破片が出土している。

ＳＫ－５（第８図）

長軸１ｍを測る不整形土坑である。北側が現代のカクランと重複する。底面最深部の標高は3.8ｍで、堆積状況から一度に埋め戻されたと推測する。陶器瓶の破片が出土している。

ＳＫ－９（第９図）

長軸1.34ｍ、短軸1.14ｍを測り、平面が隅丸方形を呈する土坑である。底面の標高は3.7ｍである。南東側はＳＫ-13を切り、西側をカクランに切られる。出土遺物（第22図１・２）から、18世紀前半には埋められていたと推測する。

ＳＫ-15（第10図）

長軸1.68ｍ、短軸0.98ｍの平面長方形を呈する土坑である。南側をＳＫ-55に切られ、北側をＳＦＫ-1に切られる。底面最深部の標高は3.94ｍで、緩やかに傾斜する。陶器、染付の破片が出土している。17世紀前半の染付碗、呉器手碗などが出土している。

ＳＫ-18（第11図）

長軸1.76ｍ、短軸1.28ｍの長方形を呈する土坑である。ＳＫ-15、ＳＦＫ-1に切られる。底面の標高は4.08ｍで、平坦に掘られている。陶器、土師質土器、瓦器、獣骨が出土している。第22図３は唐津の灰釉皿で17世紀代に比定される。

ＳＫ-43（第12図）

ＳＫ-54a、54cに切られ、全体形は不明である。底面の標高は最深部で3.28ｍである。出土遺物は、土師質こね鉢、土師質甕である。

ＳＫ-47（第13図）

長軸2.79ｍ、短軸2.73ｍを測り、平面隅丸方形を呈する土坑である。底面の標高は3.58～3.7ｍで、東から西に緩やかに傾斜する。断面形は垂直に掘り込まれた形状である。堆積状況から、一度に埋め戻された可能性が高い。出土遺物は、中国製青磁の破片、17世紀前半の染付皿、呉器手碗、土師皿、土製鈴、砥石などである。

ＳＫ-48（第14図）

長軸4.2ｍ、短軸2.55＋αｍ（調査区外へ延びる）の大型土坑で、平面形は長方形を呈する。底面の標高は3.295ｍ、底面は平坦に掘られ、埋土は水平に堆積する。断面形は垂直に掘り込まれた形状である。出土遺物（第22・23図６～16）から、18世紀後半には埋められていたと推測する。

ＳＥ－１（第15図）

直径約28.5ｍ、南側が一部現代のカクランと重複し、北側はＳＫ-15を切る。不整円形を呈する土坑である。底面の標高は3.28ｍで、平坦に掘られている。断面形は底面から急傾斜で立ち上がる形状である。堆積状況は、１～５層と礫を多く含む６～14層では異なる堆積と考えられる。時期差かあるいは再掘削されたと考える。出土した遺物から、18世紀中頃～後半に埋没したと推測する。

ＳＥ－２（第16図）

復元直径1.92ｍの円形を呈する井戸跡である。底面の標高は3.22ｍである。カクランに切られる。18世紀後半ごろの染付破片が出土している。

石列（第17図）

扁平な川原石を８個並べた石列である。石列の北側に窪みがあり、本来は川原石が据えられていたと推測する。南側の１個は西に直角に曲がる位置に配置されている。石列上面の標高は4.2ｍで、一段を確認している。

（中層検出遺構）

ＳＫ-22（第18図）

長軸1.0ｍ、短軸0.52ｍを測り、平面が不整形を呈する土坑である。底面の標高は3.76ｍである。ＳＫ-27を切る。瓦質甕破片が出土している。

ＳＫ-23（第19図）

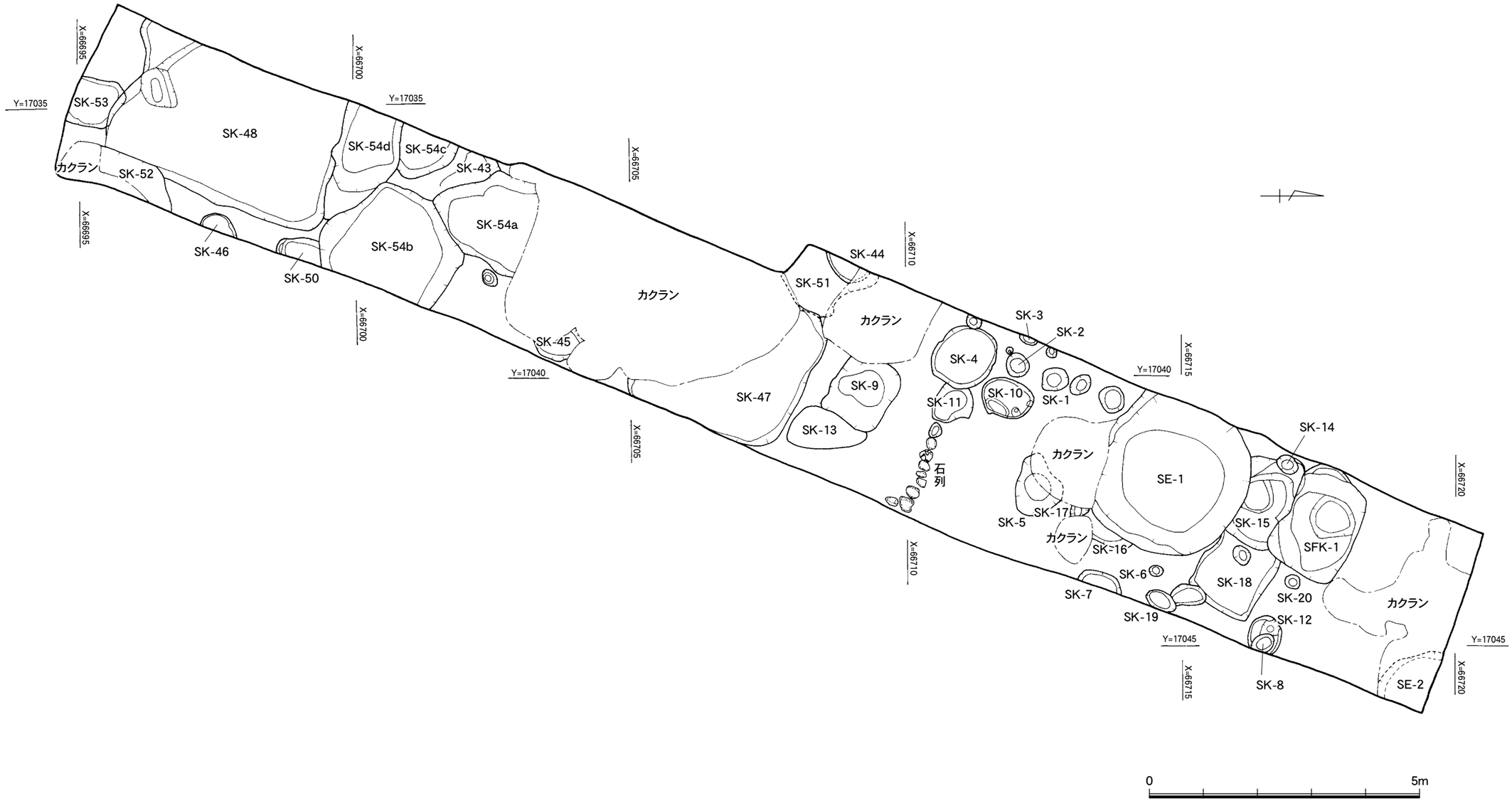
長軸0.7ｍ、短軸0.56ｍを測り、平面が楕円形を呈する土坑である。底面の標高は3.88ｍである。

ＳＫ-24（第20図）

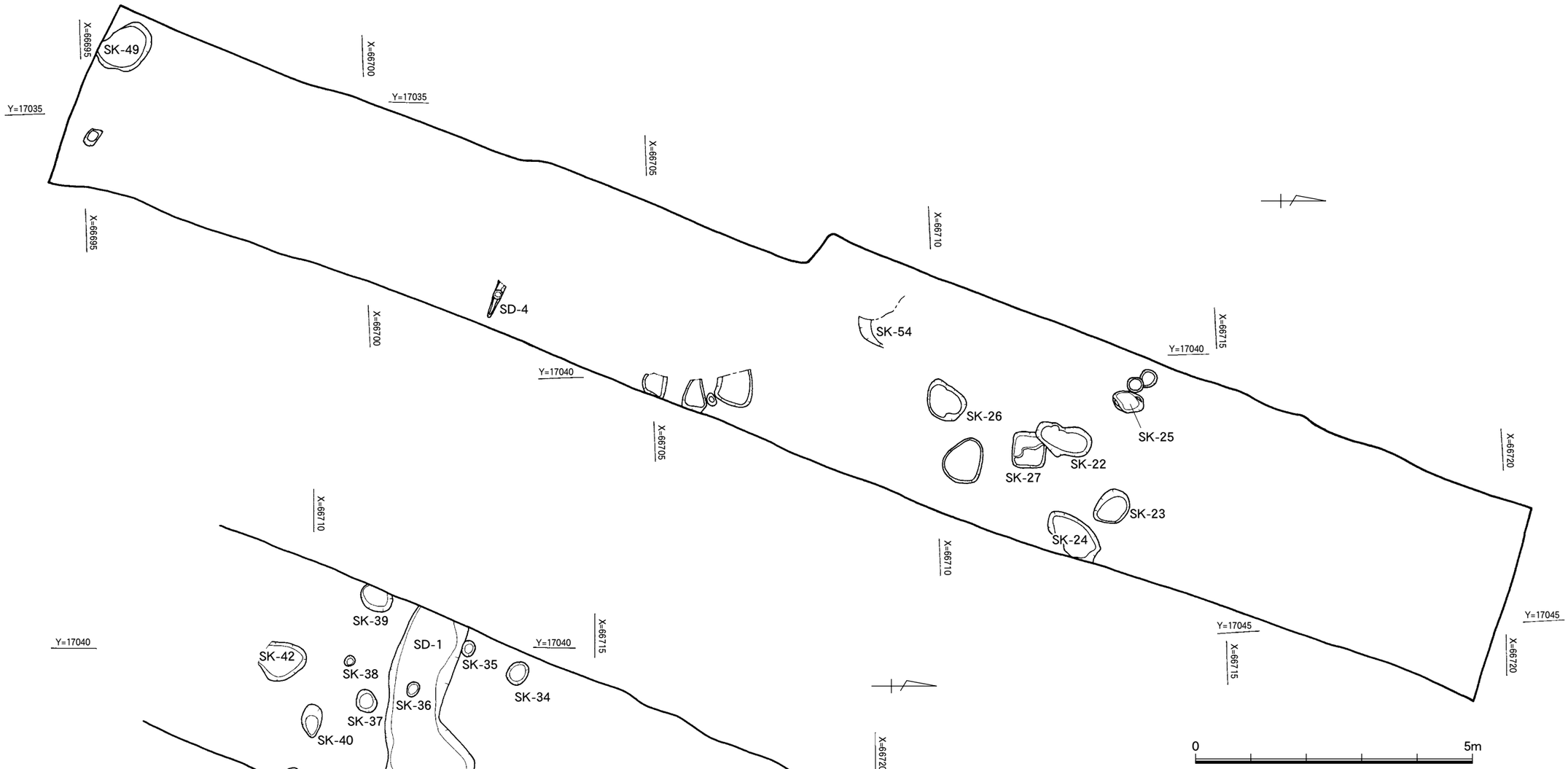
長軸1.08ｍ、短軸0.58＋αｍ（カクランに切られる）を測り、平面が楕円形を呈する土坑である。底面の標高は3.96ｍを測る。土錘が出土している。

ＳＫ-49（第21図）

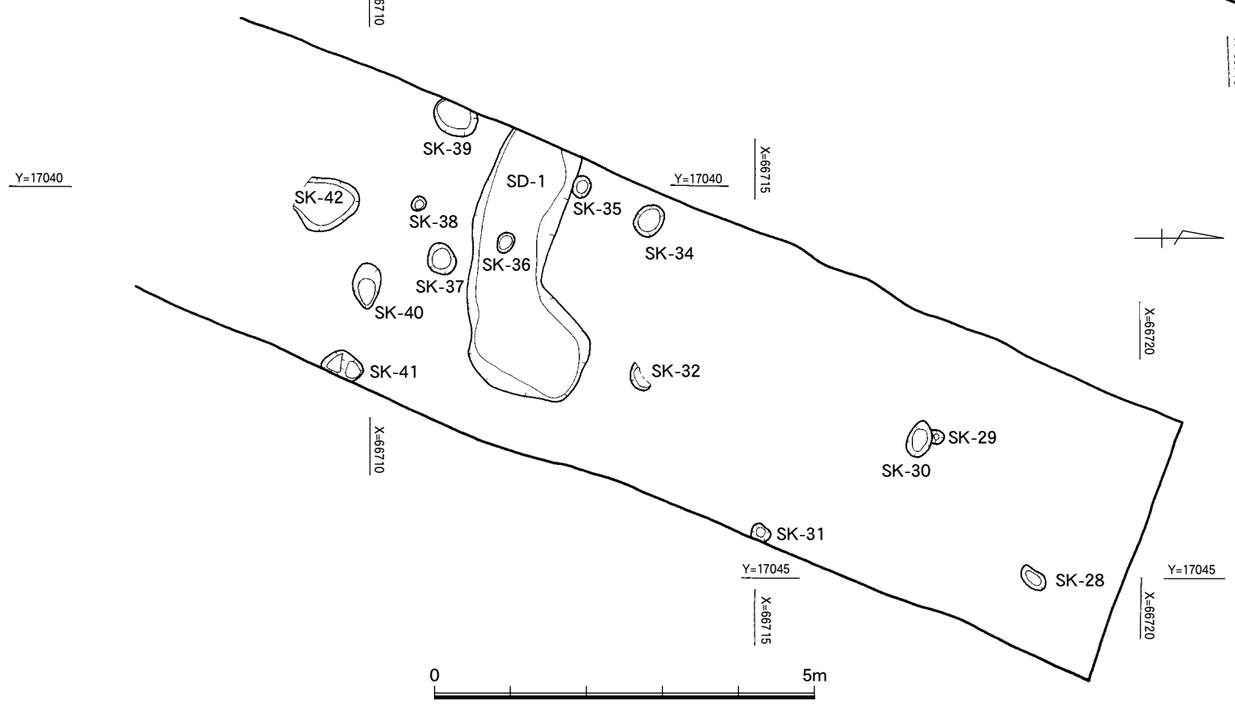
長軸1.02ｍ、短軸0.72ｍを測り、平面不整形を呈する土坑である。底面の標高は3.2ｍである。馬と思われる動物の頭の骨や肢体の骨が出土している。検出面から底面までの深さは0.12ｍと浅く、大部分は削平を受けたと考えられる。染付、陶器破片が出土している。



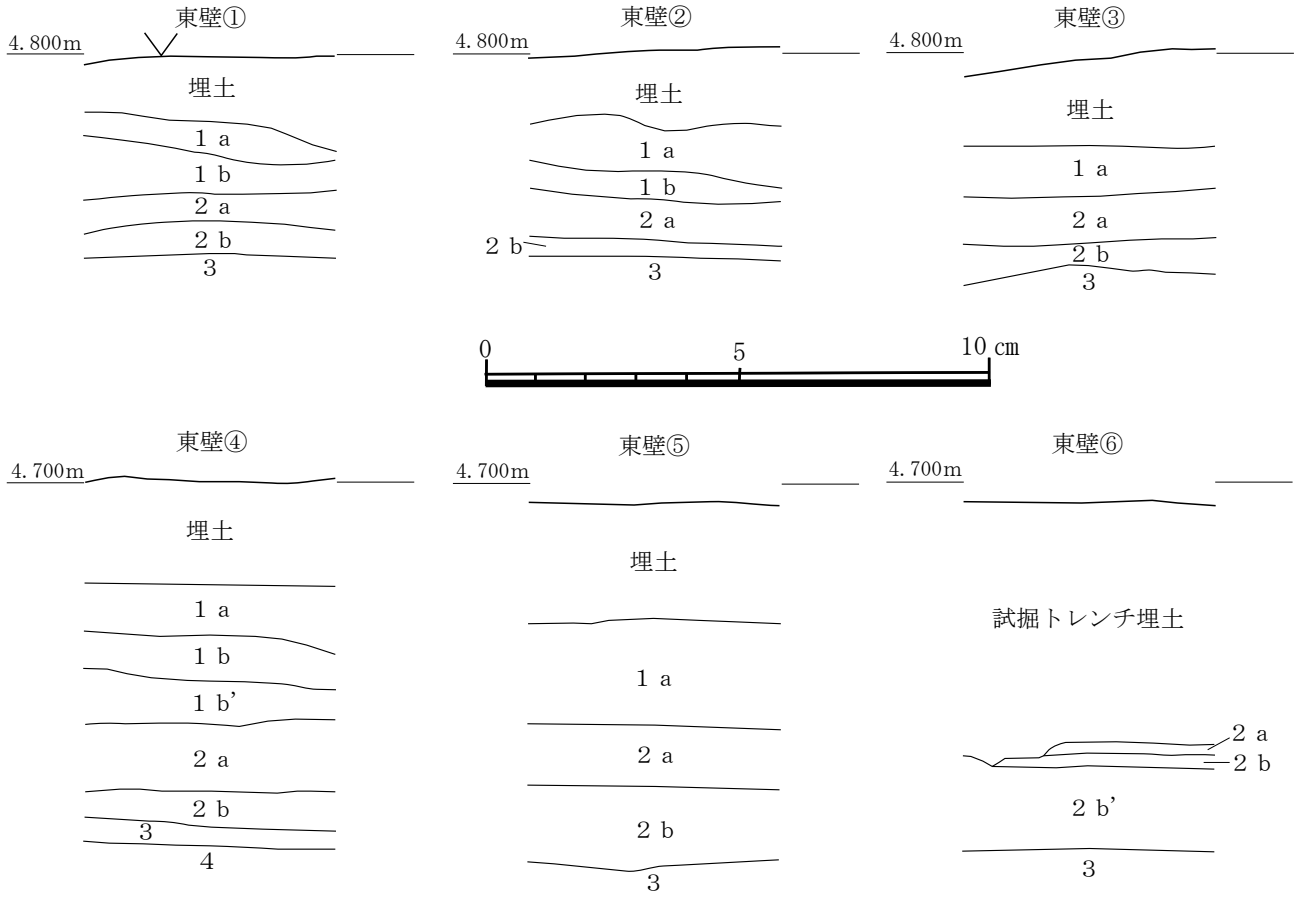
第３図　25次調査区上層遺構全体図（S =1/80）



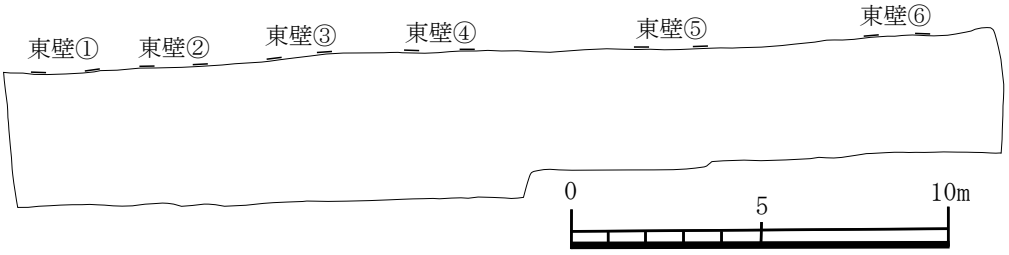
第４図　25次調査区中層遺構全体図（S =1/80）



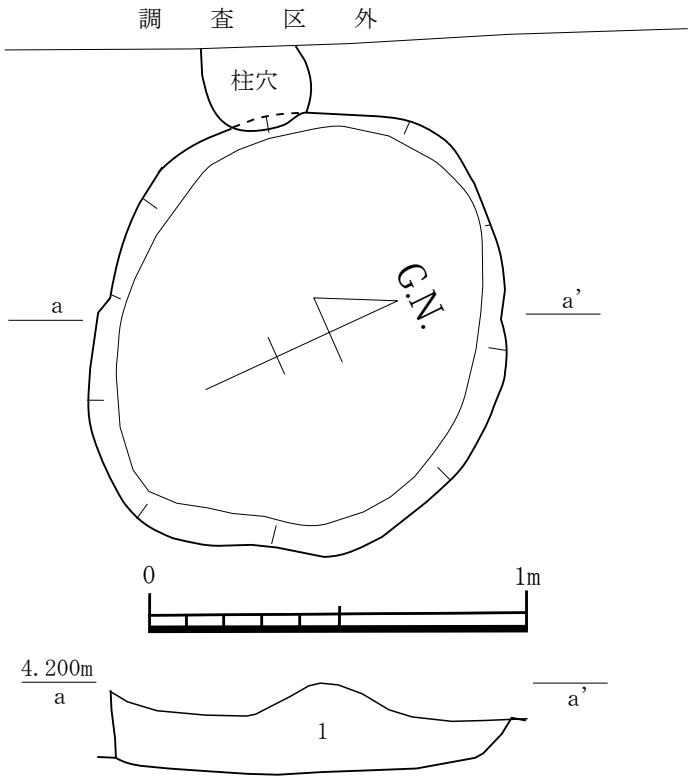
第５図　25次調査区下層遺構全体図（S =1/80）



１ａ．黄褐色土：小礫、炭化物・焼土を多く含む。しまりよく、粘性殆どなし。
１ｂ．褐色土：小礫をやや多く、黄褐色土ブロックを若干、炭化物を僅かに含む。しまりよく、粘性殆どなし。
２ａ．灰褐色土：鉄分をやや多く、炭化物を僅かに含む。しまりよく、粘性ややあり。整地層。上面が上層生活面。
２ｂ．灰褐色砂質土：鉄分を多く、炭化物を若干含む。しまりよく、粘性ややあり。整地層。上面が中層生活面。
２b'．暗赤褐色土：鉄分を多く含む。しまりよく、粘性殆どなし。
３．　赤褐色土：灰褐色土ブロック・鉄分・マンガンを多く含む。しまりよく、粘性余りなし。地山。上面が下層生活面。
４．　暗灰褐色土：鉄分を若干含む。しまりよく、粘性殆どなし。地山。

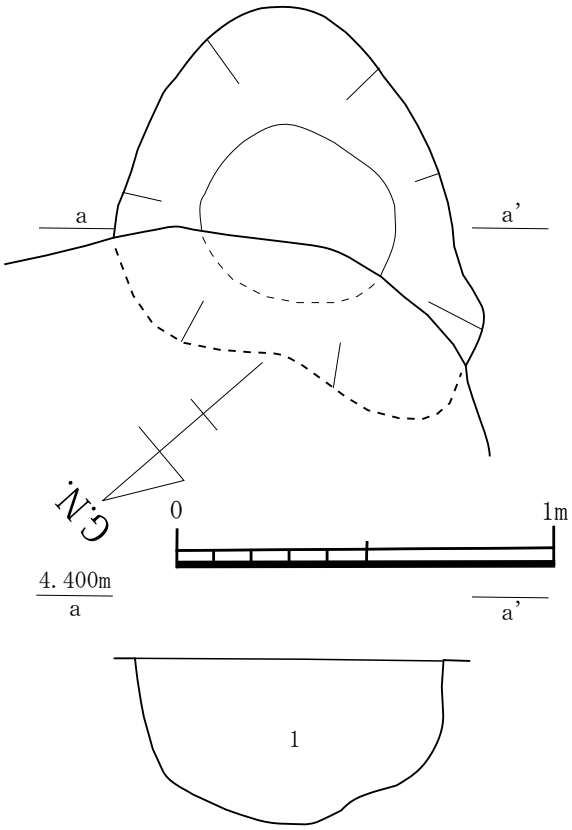


第６図　調査区東壁土層図・調査区（Ｓ=1/30、調査区はＳ=1/200）



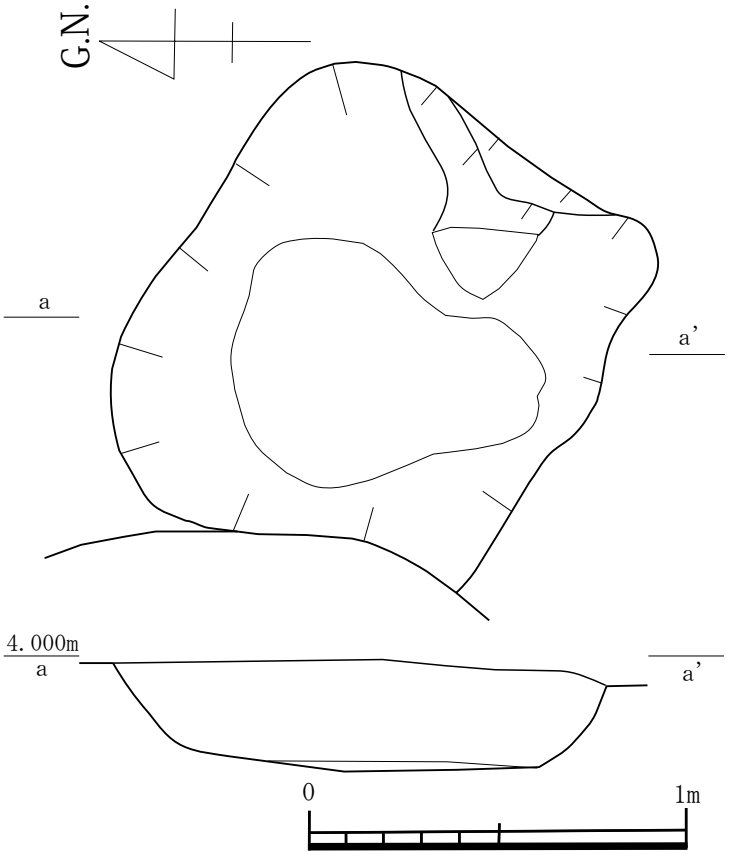
1．暗褐色土：黄褐色土ブロックを多く、炭化物を若干、焼土、小・中礫を僅かに含む。しまりよく、粘性殆どなし。

第７図　ＳＫ-４平・断面図（S=1/20）

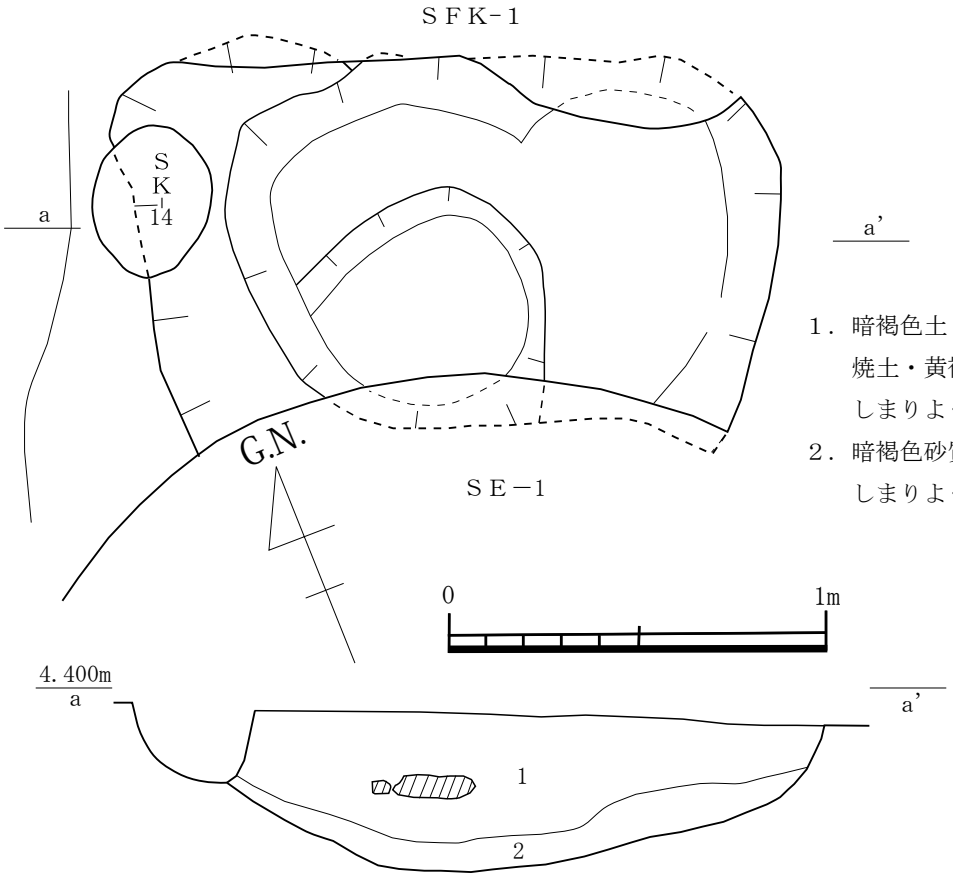


1．暗褐色土：焼土・炭化物・小礫を若干含む。しまりよく、粘性余りなし。

第８図　ＳＫ-５平・断面図（S=1/20）

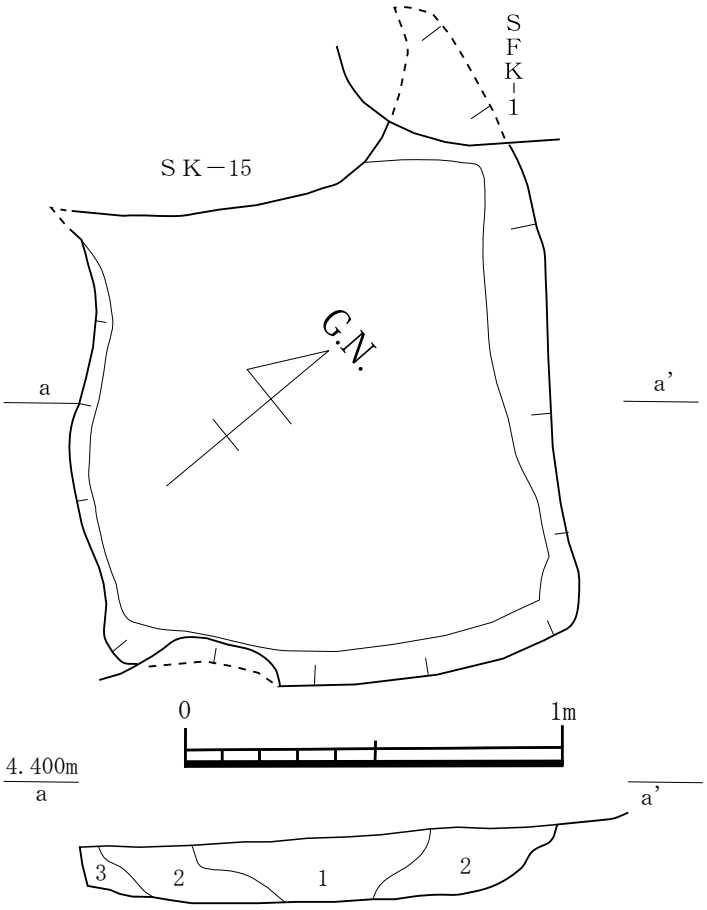


第９図　ＳＫ-９平・断面図（S=1/20）



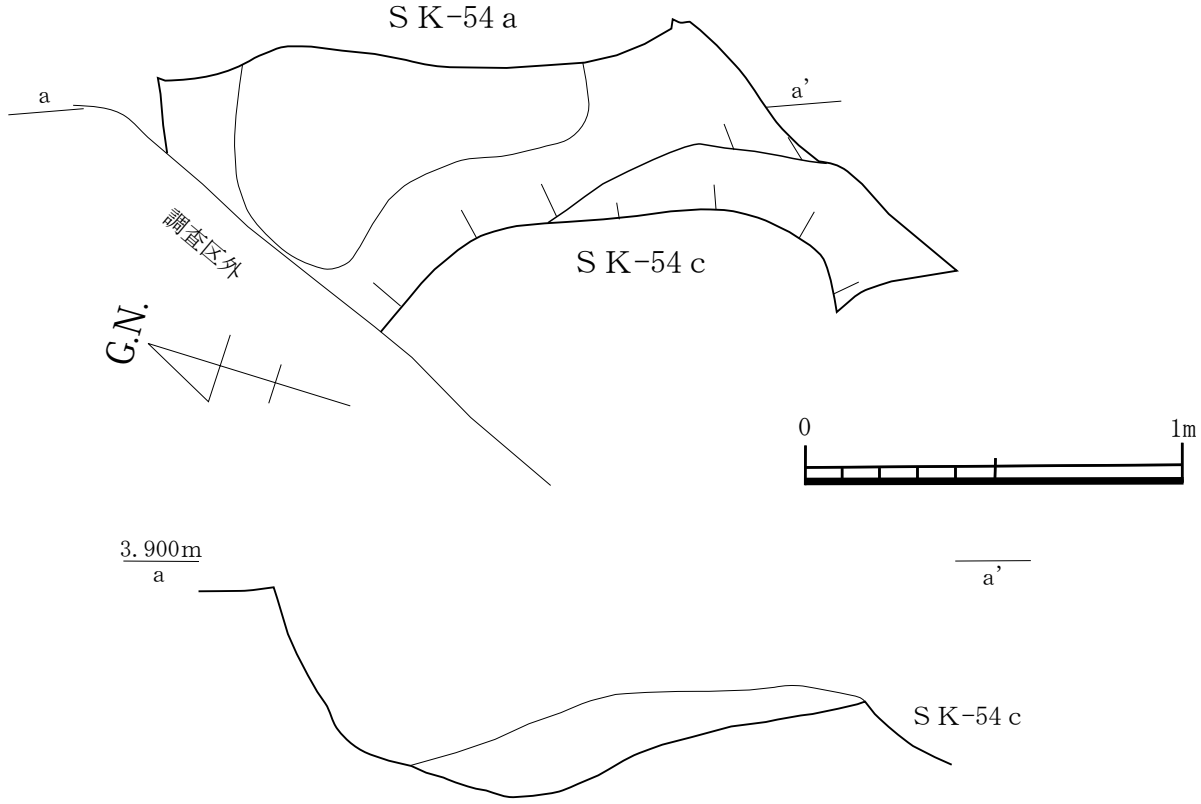
１．暗褐色土：炭化物をやや多く、
　　焼土・黄褐色土ブロックを若干含む。
　　しまりよく、粘性ややあり。
２．暗褐色砂質土：黄褐色土ブロックを多く含む。
　　しまりよく、粘性ややあり。

第10図　ＳＫ-15 平・断面図（S＝1/20）



１．暗褐色土：中礫・焼土・炭化物を僅かに含む。
　　しまりよく、粘性ややあり。
２．褐色土：黄褐色土ブロック・炭化物・焼土を若干含む。
　　しまり非常によく、粘性殆どなし。
３．黄褐色土：炭化物・焼土を若干含む。
　　しまり非常によく、粘性殆どなし。

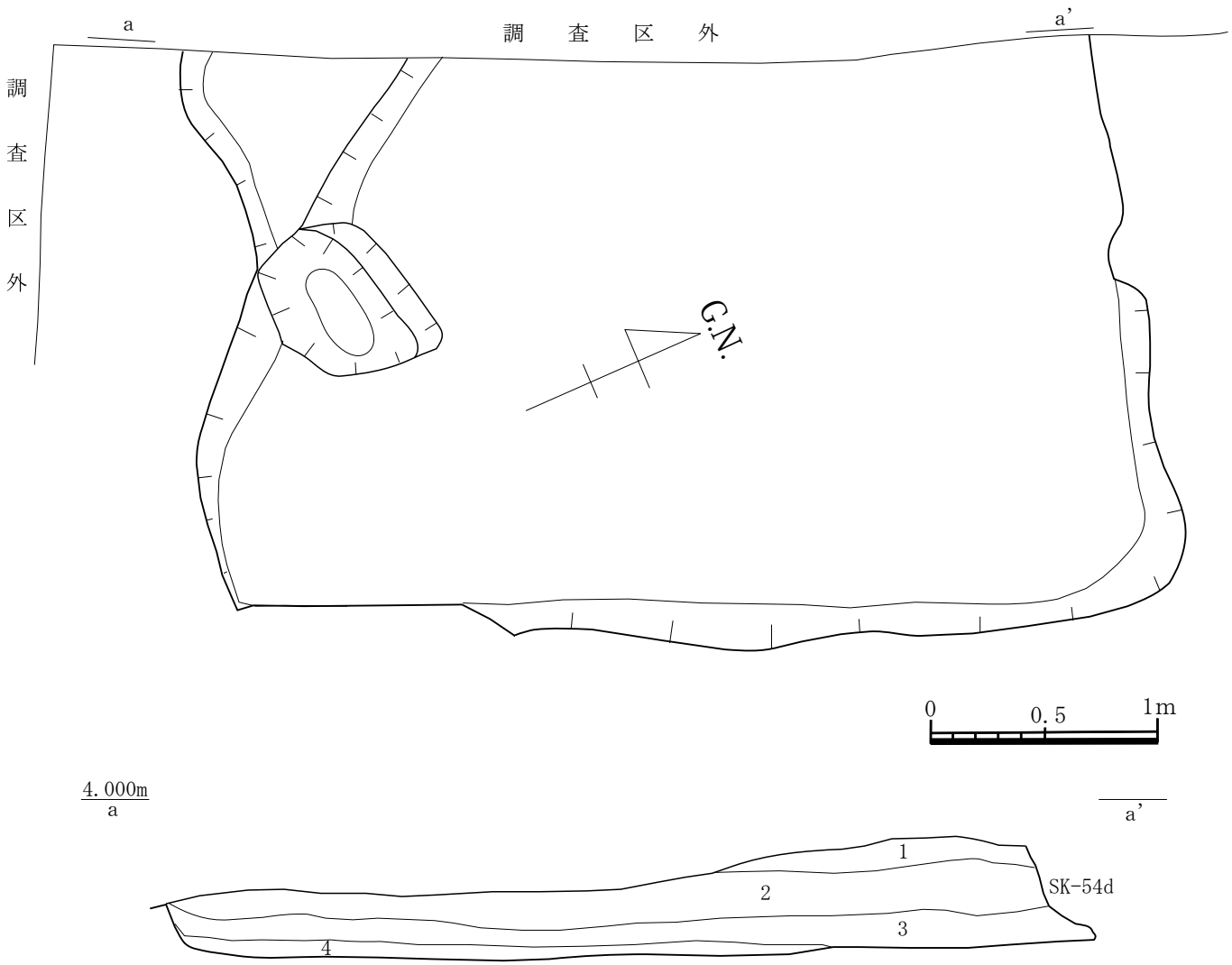
第11図　ＳＫ-18 平・断面図（S＝1/20）



第12図　ＳＫ-43 平・断面図（Ｓ=1/20）

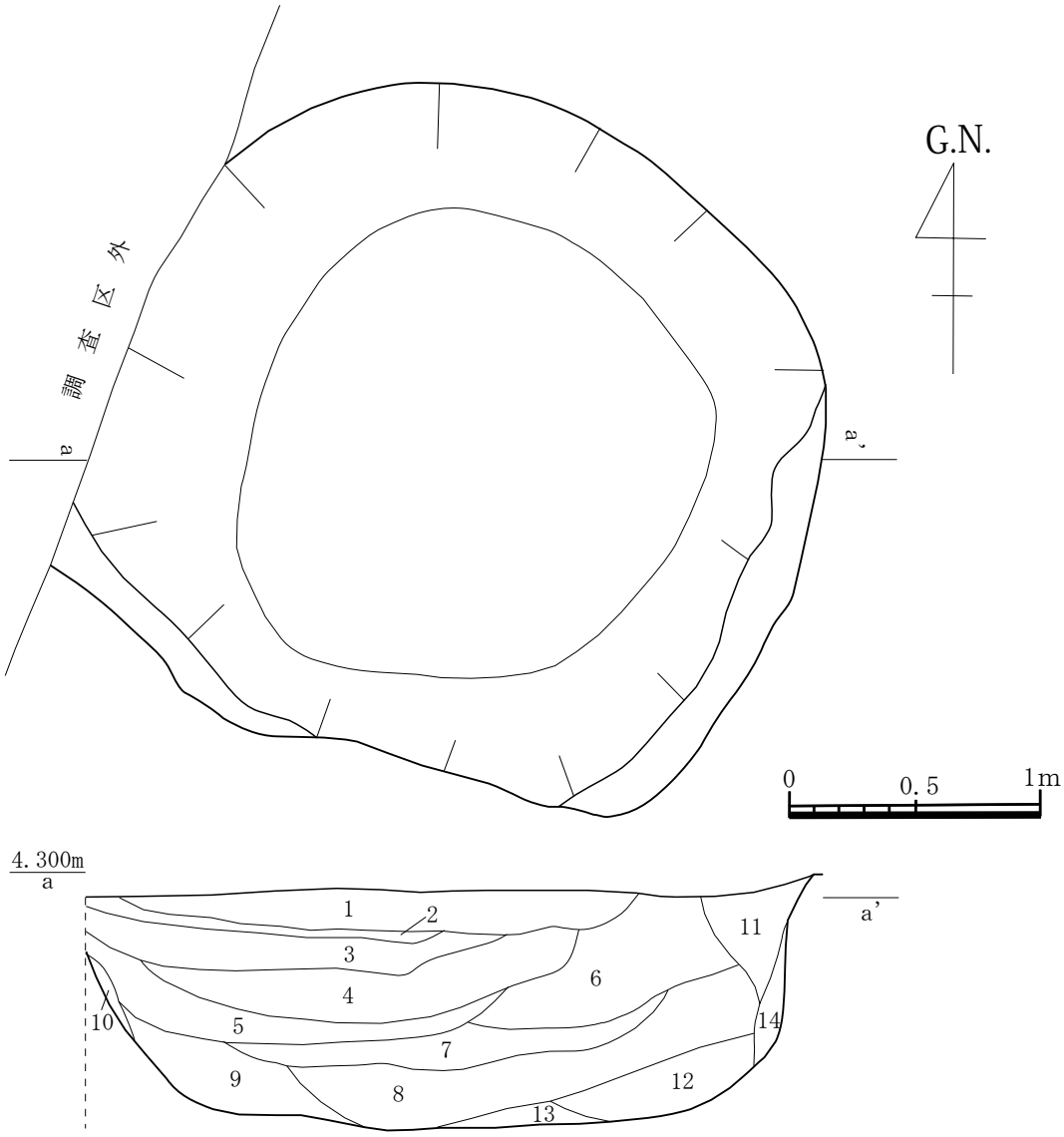
1．暗褐色土：黄褐色土ブロック・炭化物・焼土を若干含む。
　しまりよく、粘性殆どなし。
2．褐色土：炭化物・白色粒子を僅かに含む。
　しまりよく、粘性殆どなし。

第13図　ＳＫ-47 平・断面図（Ｓ=1/30）



１．暗褐色土：黄褐色土ブロック、炭化物を若干含む。しまりよく、粘性ややあり。
２．暗褐色土：上辺に黄褐色土ブロック、全体に炭化物・中礫を若干含む。しまりよく、粘性ややあり。
３．暗褐色土：暗黄褐色土ブロックを多く、炭化物を若干含む。しまりよく、粘性割合あり。
４．黄褐色土：暗褐色土ブロックを若干含む。しまりよく、粘性割合あり。

第14図　ＳＫ-48 平・断面図（S＝1/30）



1．暗灰褐色砂質土：黄褐色土ブロックを僅かに、炭化物を若干、鉄分をやや多く含む。しまりよく、粘性殆どなし。

2．黄褐色砂質土：暗灰褐色砂質土ブロックをやや多く、炭化物を僅かに含む。しまり非常によく、粘性殆どなし。

3．暗黄褐色砂質土：黄褐色土ブロック・炭化物・焼土を若干含む。しまりよく、粘性余りなし。

4．暗灰褐色土：黄褐色土ブロックを多く、炭化物をやや多く、焼土を若干含む。しまりやや甘く、粘性割合あり。

5．暗灰褐色土：黄褐色土ブロック・炭化物をやや多く含む。しまりやや甘く、粘性割合あり。

6．暗褐色土：黄褐色土粒子を多く、炭化物を僅かに含む。しまりやや甘く、粘性あり。

7．暗灰褐色土：炭化物・焼土・白灰色土ブロックをやや多く、大礫を若干含む。しまりやや甘く、粘性割合あり。

8．暗灰褐色砂質土：白灰色土ブロック・炭化物・大・小礫を多く、焼土を若干含む。しまりよく、粘性あり。

9．淡黄灰砂質土：暗灰色土ブロックを多く、炭化物・焼土を若干含む。しまりやや甘く、粘性あり。

10．黄褐色土：暗灰褐色土ブロックを多く、炭化物を僅かに含む。しまりよく、粘性ややあり。

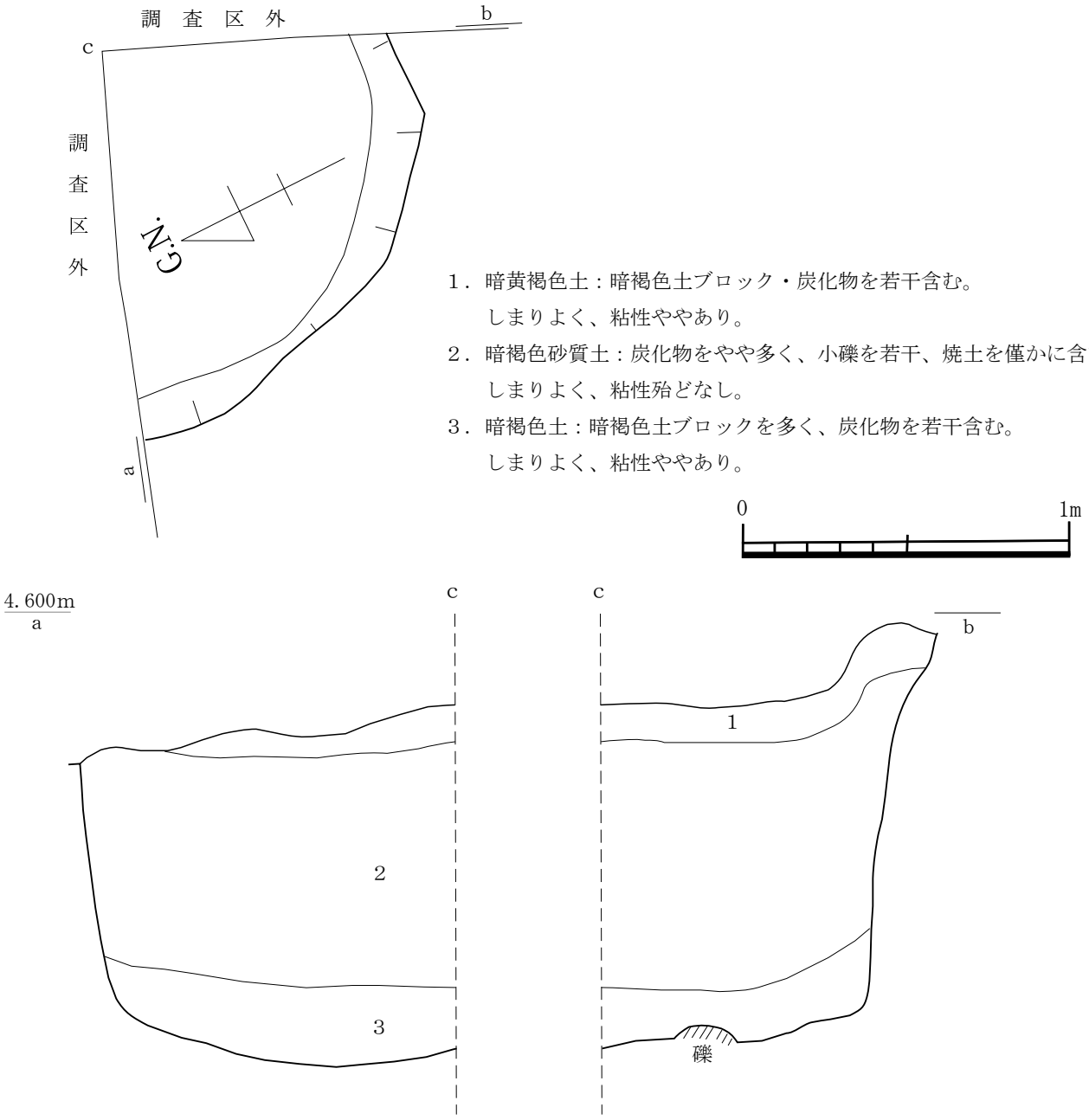
11．暗褐色土：焼土・炭化物を僅かに、大礫を多く含む。しまり甘く、粘性殆どなし。

12．暗黄褐色砂質土：暗褐色土ブロックを多く、炭化物・焼土を若干、中礫を僅かに含む。しまりやや甘く、粘性割合あり。

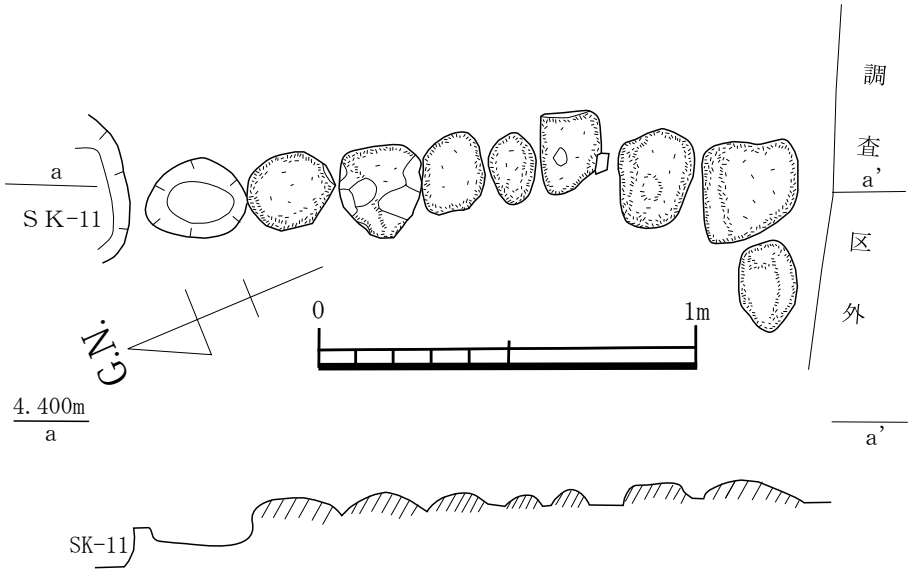
13．暗褐色砂質土：鉄分を多く、黄褐色土ブロックを若干、中礫を僅かに含む。しまりやや甘く、粘性余りなし。

14．暗黄褐色砂質土：暗褐色土ブロックを多く含む。しまりよく、粘性殆どなし。

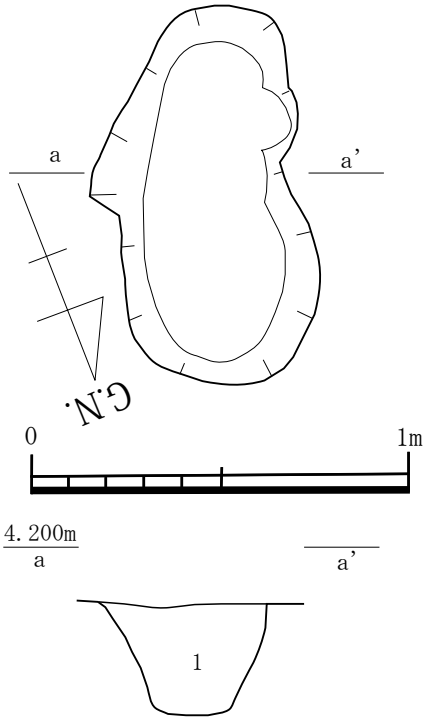
第15図　ＳＥ-１平・断面図（S＝1/30）



第16図　ＳＥ-２平・断面図（S=1/20）

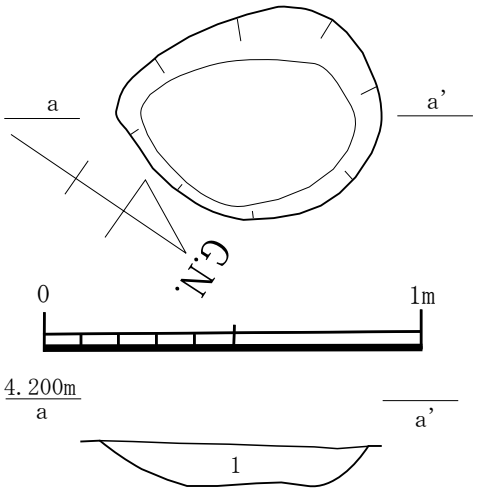


第17図　石列平・断面図（S=1/20）



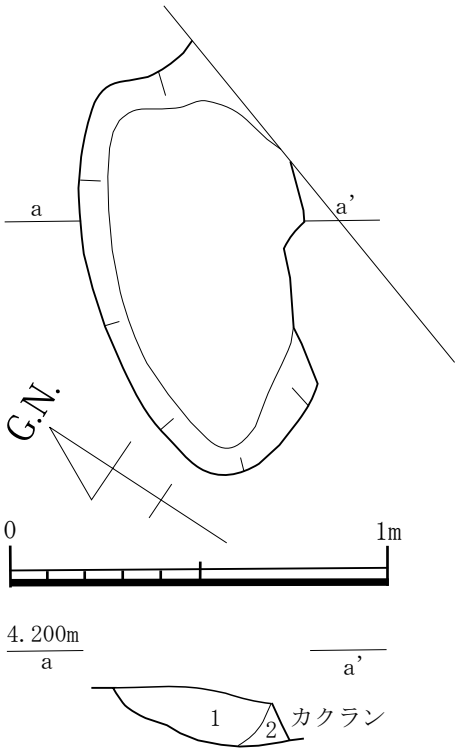
１．暗褐色土：焼土・炭化物・小礫を若干含む。しまりよく、粘性余りなし。

第18図　ＳＫ-22 平・断面図（S=1/20）



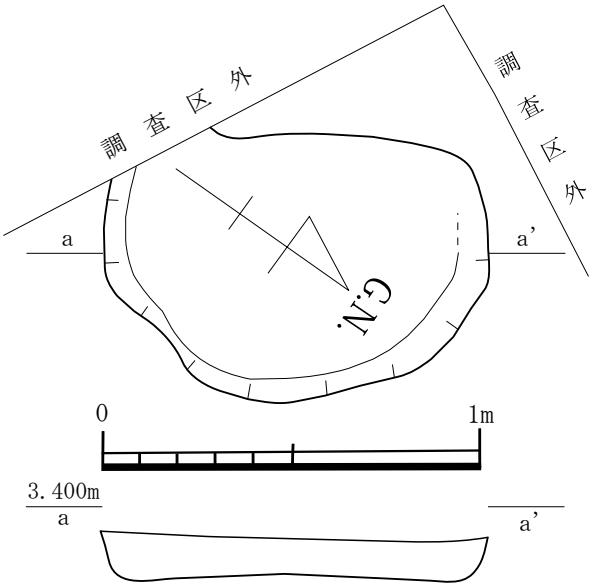
１．暗褐色土：暗黄色土ブロックを多く、炭化物・焼土を若干含む。しまりよく、粘性殆どなし。

第19図　ＳＫ-23 平・断面図（S=1/20）



１．暗褐色土：炭化物・焼土・暗黄色土ブロックを多く含む。しまりよく、粘性殆どなし。
２．黒褐色土：灰色土ブロックを多く含む。しまりよく、粘性殆どなし。

第20図　ＳＫ-24 平・断面図（S=1/20）



第21図　ＳＫ-49 平・断面図（S=1/20）

ＳＫ-49 遺物出土状況（南から）

表２　25次調査遺構観察表

遺構								遺物	
種別	番号	検出層位	平面形	規模(m)			備考	内容	時期
				長軸	短軸	標高			
SK	1	上	円形	0.46		4.130		土師器	
	2	上	円形	0.4		4.140		陶器	
	3	上	?	0.34		4.145	調査区外へ延びる		
	4	上	楕円形	1.16	1.06	3.960		陶器	
	5	上	不整形	1		3.800		陶器	
	6	上	円形	0.24		4.235			
	7	上	?	0.84		3.945	調査区外へ延びる	土師器	
	8	上	楕円形	0.4+α	0.32	4.000			
	9	上	隅丸方形	1.34	1.14	3.700		陶器、砥石	
	10	上	楕円形	0.96	0.7	3.930			
	11	上	楕円形	0.84	0.58	3.950			
	12	上	楕円形?	0.68+α	0.6	3.835		銅付着土師器皿	
	13	上	不整形	?		?	SK9に切られる		
	14	上	楕円形	0.42	0.3	4.160			
	15	上	不整形	1.68	0.98	3.880	SK15、SFK1に切られる	陶器・染付	17世紀
	16	上	?	?		4.035	SE1に切られる	陶器	
	17	上	?	0.36	0.16+α	4.090	カクランに切られる	陶器	
	18	上	長方形	1.76	1.28	4.080		陶器・瓦器・獣骨	
	19	上	楕円形	0.62	0.34	4.045		土師器	
	20	上	円形	0.26	0.52	4.160			
	22	中	楕円形	1	0.52	3.760		瓦器	
	23	中	楕円形	0.7	0.54	3.880			
	24	中	楕円形	1.08	0.58+α	3.960	カクランに切られる	土錘	
	25	中	楕円形	0.56	0.36	3.720		土師器	
	26	中	楕円形	0.76	0.58	3.910		土師器・陶器	
	27	中	隅丸方形	0.62		3.875		土師器	
	28	下	楕円形	0.38	0.22	3.875			
	29	下	円形	0.22		3.620	SK30に切られる		
	30	下	楕円形	0.5	0.32	3.850			
	31	下	楕円形	0.3	0.24	3.815			
	32	下	?	0.38		3.750	SE1に切られる		
	34	下	円形	0.42	0.36	3.860			
	35	下	円形	0.3		3.825			
	36	下	楕円形	2.4	2.2	3.660			
	37	下	円形	0.42		3.760			
	38	下	円形	0.18		3.755			
	39	下	楕円形	0.6	0.38+α	3.675	調査区外へ延びる		
	40	下	楕円形	0.6	0.36	3.760			
	41	下	楕円形	0.56	0.3+α	3.545	調査区外へ延びる		
	42	下	不整形	0.86	0.7	3.610			
	43	上	?	?	?	3.280		土師器・陶器・染付	
	44	上	楕円形?	0.82	0.32	3.830	調査区外へ延びる	染付	
	45	上	楕円形?	0.7+α	0.74	3.655		土師器・陶器	
	46	上	楕円形?	0.74	0.32+α	3.705	調査区外へ延びる		
	47	上	隅丸方形	2.79	2.73	3.700		土師器・中国製青磁・陶器・染付・砥石・土鈴	17世紀
	48	上	長方形	4.2	2.55+α	3.295	SK52に切られる、調査区外へ延びる	土師器・中国製青磁・陶器・染付	18世紀後半
	49	中	不整形	1.02	0.72	3.200	獣骨(馬か)	陶器・染付	
	50	上	?	0.8+α	0.46+α	3.590	SK54bに切られる、調査区外へ延びる		
	51	上	不整形	1.46+α	1.2+α		SK44に切られる、調査区外へ延びる	土師器・陶器・染付	
	52	上	?	1.7+α	0.7+α	3.510	カクランに切られる、調査区外へ延びる		
	53	上	隅丸方形?	0.94	0.9+α	3.050	SK48に切られる、調査区外へ延びる	青磁	
	54	中	不整形		1.76	3.340			
	54a	上	不整形	1.9+α	1.96+α	3.165	カクランに切られる	土師器・陶器・染付	18世紀後半
	54b	上	方形	2.5	0.92+α	3.290	SK54aに切られる、調査区外へ延びる		
	54c	上	楕円形?	1.1+α	1.26+α	3.360	SK54dに切られる、調査区外へ延びる		
	54d	上	長方形	1.58+α	1.16	3.180	SK48、54bに切られる、調査区外へ延びる		
SD	1	下		3.3+α	1.4	3.585	調査区外へ延びる		
	4	中		0.78	0.16	3.490			
SE	1	上	円形	2.85		3.235	カクランに切られる	土師器・陶器・染付	17～18世紀中から後半
	2	上	円形?	1.2+α	0.98+α	3.285	カクランに切られる、調査区外	染付	18世紀後半
SFK	1	上	長方形	2	1.4	4.025		陶器	18世紀
石列	1	上				4.200			

SK＝土坑　SD＝溝状遺構　SE＝井戸跡　SFK＝焼土坑

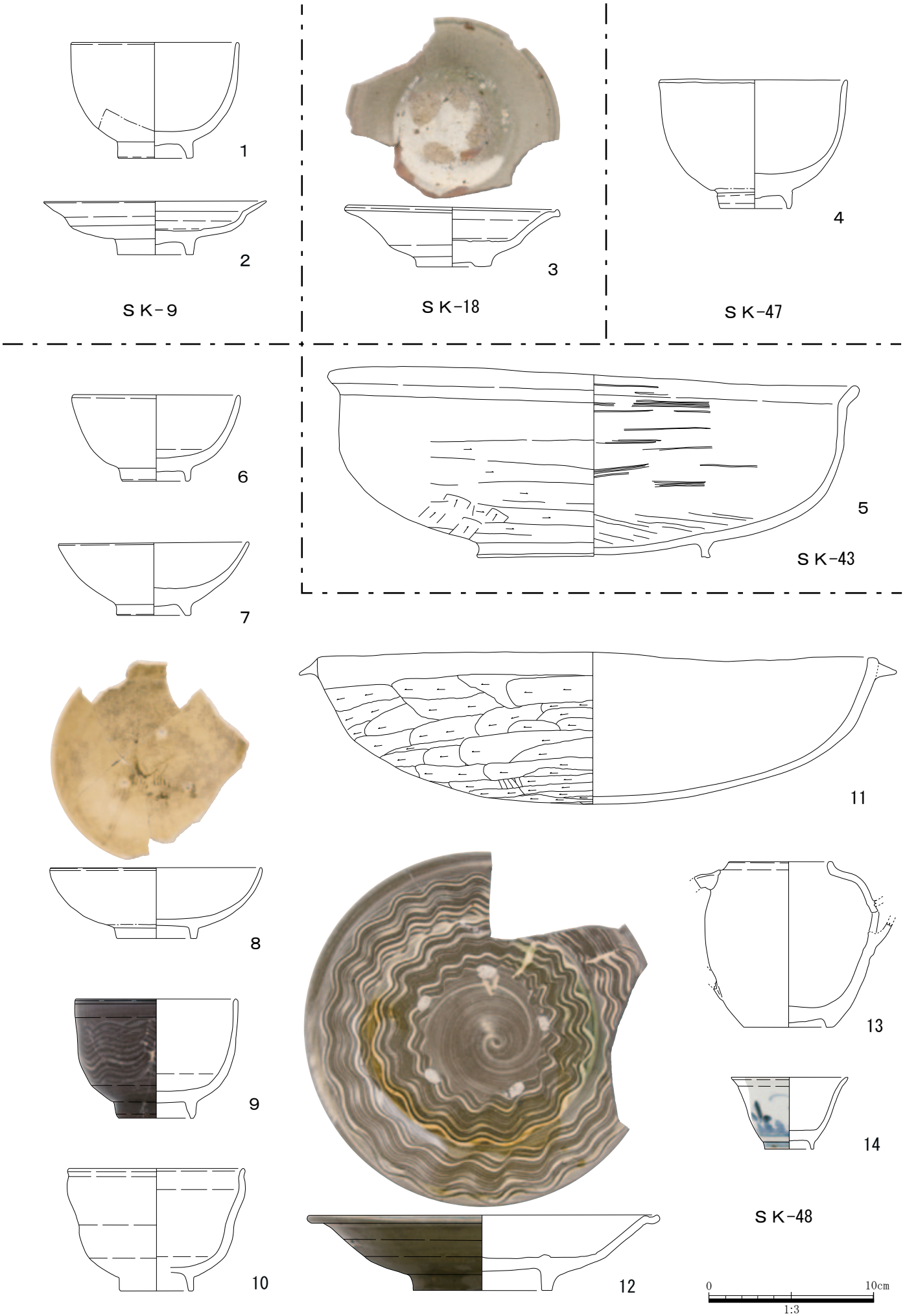
（３）出土遺物（第22～26図）

出土遺物は概ね、18世紀中頃から後半を中心とすると考えられる。17世紀代の遺物はごく少量であるが、ＳＫ-15、ＳＫ-47、ＳＥ-１から出土しているが主体となる出土量ではない。また、中世の中国製青磁の小破片も散見できる。

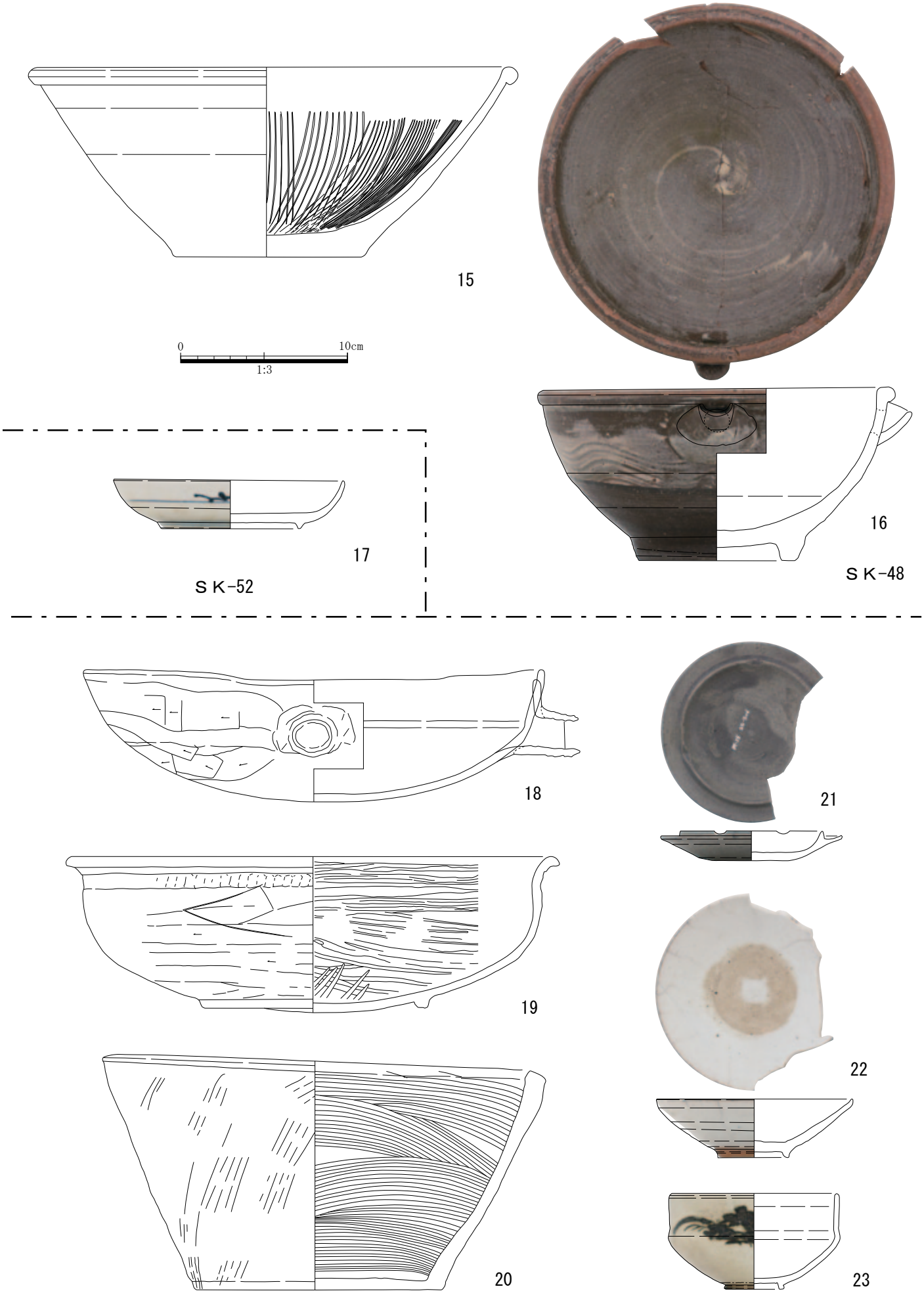
表３　25次調査区図化遺物観察表

No.	遺構名	種　別	器　種	法　量(cm、g)				色調・胎土	釉　調	文様・装飾	技法の特徴	残　存	備　考
				口　径	器　高	底　径	その他						
1	SK9	陶器	碗	(13.00)	7.10	高台径 4.50		にぶい橙	黒褐色の釉、にぶい光沢あり		内:ナデ 外:回転ヘラケズリ	3/5	
2	SK9	陶器	皿	13.60	3.30	高台径 4.62		灰白 砂粒を多く含む	明オリーブ灰色の透明釉、光沢あり		内:目跡、蛇の目状に釉カキ取る	2/3	高台に砂が付着
3	SK18	陶器	皿	12.80	3.80	高台径 4.60		橙	灰オリーブ色の透明釉、光沢あり 一部光沢のない黄みがかった灰白色に発色		内:目跡	1/2	唐津焼
4	SK47	陶器	碗	11.60	7.90	高台径 4.50		橙	内:オリーブ黒色(一部青く発色)の不透明釉が厚めにかかる、やや光沢あり 外:灰白色の不透明釉が厚めにかかる			3/5	
5	SK43	土師器	鉢	32.30	11.70	高台径 14.20		明黄褐 0.5～1㎜程の砂粒を含む			内:ミガキ 外:ナデ、ヘラケズリ、貼付高台	高台～体部全周、口縁部3/4残存	
6	SK48	染付	碗	10.30	5.30	高台径 4.20		灰白	明オリーブ色の透明釉、光沢あり 染付は青灰色に発色	外:梅文、竹文		2/3	
7	SK48	陶器	碗	11.70	4.50	高台径 4.60		灰赤	暗赤褐色の透明釉、光沢・貫入・気泡あり		内:蛇の目状に釉をカキ取る	2/3	
8	SK48	陶器	碗	(13.00)	4.35	高台径 4.85		淡黄	浅黄色の透明釉、光沢あり			2/3	京焼風
9	SK48	陶器	碗	10.00	7.30	高台径 4.60		赤橙 白粒子を多く含み、内面に2㎜程の小石あり	オリーブ黒色の透明釉	外:刷毛目	高台ケズリ出し	4/5	唐津焼
10	SK48	陶器	碗	(10.84)	7.50	高台径 4.40		浅黄橙 小さい気泡を多く含む	にぶい褐色の釉、光沢あり			1/2	
11	SK48	土師器	ホウロク	33.60	9.35	4.00		にぶい黄橙、黒褐 白粒子を多く含む			内:ナデ 外:ヘラケズリ、貼付後ナデ、ケズリ	中部が数ヵ所欠けるが、ほぼ完形	口縁部が大きくゆがむ、全体にススが付着
12	SK48	陶器	皿	21.79	4.62	高台径 8.50		内:にぶい褐　外:灰褐 高台が一部白くなっている、小さい気泡を多く含む	にぶい褐色の透明釉、光沢あり	刷毛目	内:目跡 外:回転ヘラケズリ	4/5	唐津焼
13	SK48	陶器	瓶	5.50	10.15	5.50	最大径 10.00	明赤褐	鉄釉(一部青く変色)、やや光沢あり			4/5	
14	SK48	染付	小坏	7.15	4.40	高台径 3.00		灰白 黒粒子を多く含む	薄い明緑灰色の透明釉、光沢あり			3/5	高台に砂が付着
15	SK48	陶器	擂鉢	(29.50)	11.50	11.20		赤 黒粒子を少量含み、小さい気泡を少量含む	オリーブ黒色の透明釉、光沢あり		内:回転ナデ、刷毛目 外:回転ナデ、糸切り	3/5	
16	SK48	陶器	鉢	21.61	10.50	高台径 8.50		赤褐、外面上部:灰白 1㎜程の白石を少量含む	内:褐色の透明釉 外下部:暗褐色の透明釉		内:回転ナデ 外:回転ヘラケズリ、刷毛目、高台ケズリ出し	口縁部が一部欠けるが、ほぼ完形	唐津焼
17	SK52	染付	皿	14.00	3.00	高台径 8.47		灰白 小さい気泡を少量含む	薄い明オリーブ灰色の半透明釉	見込み五弁花、墨弾き		1/2残存、口縁一部欠損	内:白と黒の付着物あり
18	SD3	土師器	ホウロク	27.70	8.00			内:明黄褐 外:にぶい黄橙0.5～1㎜程の砂粒を含む			内:ナデ 外:ケズリ、ヘラケズリ	2/3	外面にスス付着
19	SD3	土師器	鉢	29.00	9.45	高台径 14.10		内外:橙 0.5～1㎜程の白粒子を少量含む			内:ミガキ 外:回転ナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台、ヘラケズリ、指跡、ヘラ記号?	ほぼ完形	底部が高台より突出している
20	SD3	土師器	鉢	26.80	14.20	14.90		浅黄橙 3～5㎜程の小石を多く含む、1㎜程の気泡を多く含む			内:刷毛目 外:ヘラケズリ、刷毛後ナデ調整、ナデ	底部が一部欠けるが、ほぼ完形	
21	SD3	陶器	灯明皿	8.65	1.80	4.75	最大径 11.00	灰 黒粒子を多く含む	灰色の透明釉		内:回転ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り	3/4	
22	SD3	磁器	皿	11.90	3.54	高台径 4.30		灰白、高台が一部明赤褐色に発色 黒粒子を少量含む	灰白色の釉		内:回転ナデ、蛇の目状に釉をカキ取る 外:回転ナデ	2/3	
23	SD3	陶器	碗	10.39	5.80	高台径 (3.62)		灰白、高台:浅黄橙 砂粒を多く含む	灰白色の透明釉	鉄絵	回転ナデ	1/2	
24	SD3	陶胎染付	碗	10.55	7.10	高台径 4.85		灰、高台が赤茶色に発色 黒粒子を多く含む	緑灰色の透明釉			3/4	高台内部に1～2㎜程の小石が少量付着
25	SD3	陶胎染付	香炉	10.20	7.80	高台径 5.48		明褐 黒粒子を多く含む	灰白色の半透明釉		内:回転ナデ 外:回転ヘラケズリ、高台ケズリ出し	口縁部が一部欠けるが、ほぼ完形	
26	SD3	染付	小碗	8.10	4.40	高台径 3.10		灰白、精良 微細な黒粒子を含む	明オリーブ灰色の透明釉、光沢あり			3/4	
27	SD3	染付	小碗	8.61	4.95	高台径 3.35		灰白、高台が赤橙色に発色 黒粒子を多く含む	薄い灰白色の半透明釉、やや光沢あり			口縁部と高台が一部欠けるが、ほぼ完形	
28	SD3	染付	碗	10.20	5.50	高台径 4.80		灰白、精良	緑みがかった灰色の透明釉、光沢あり、染付は群青色に発色			ほぼ完形、口縁部1/8欠損	
29	SD3	染付	碗	10.00	5.20	高台径 4.20		灰白、精良	緑みがかった灰白色の透明釉、光沢あり、染付は淡青色に発色	コンニャク印		1/2	
30	SD3	染付	皿	13.50	3.90	4.60		灰白、精良	明青灰色の透明釉、光沢あり		内:蛇の目状に釉をカキ取る 外:高台釉をカキ取る	4/5残存、口縁部1/5欠損	五寸皿
31	SD3	染付	瓶	1.85	16.10	高台径 (5.00)		内:にぶい橙、黒粒子を多く含む 外:灰白	薄い明緑色の透明釉、やや光沢あり			2/3	高台に砂が付着
32	SD3	染付	瓶	3.30	16.20	高台径 (5.50)		灰白 細かい砂粒を少量含む	灰白色の透明釉、光沢あり			3/5	外面体部に付着物あり
33	SD3	土師器	甕	28.50	31.70	22.00		橙 微細～3㎜程の白粒子、黒粒子を含む			内:ナデ 外:ヨコナデ、荒い刷毛目をナデ消し、回転ナデ、板状圧痕、貼付凸帯(刻み目)	底部全周～口縁部約1/3残存	
34	SD3	土師器	甕	31.50	29.80	16.20		内外:褐灰～灰 0.5～5㎜程の白粒子を含む			内:刷毛目(粗い・細かい)、ナデ 外:刷毛後ナデ消し、ケズリ	4/5	

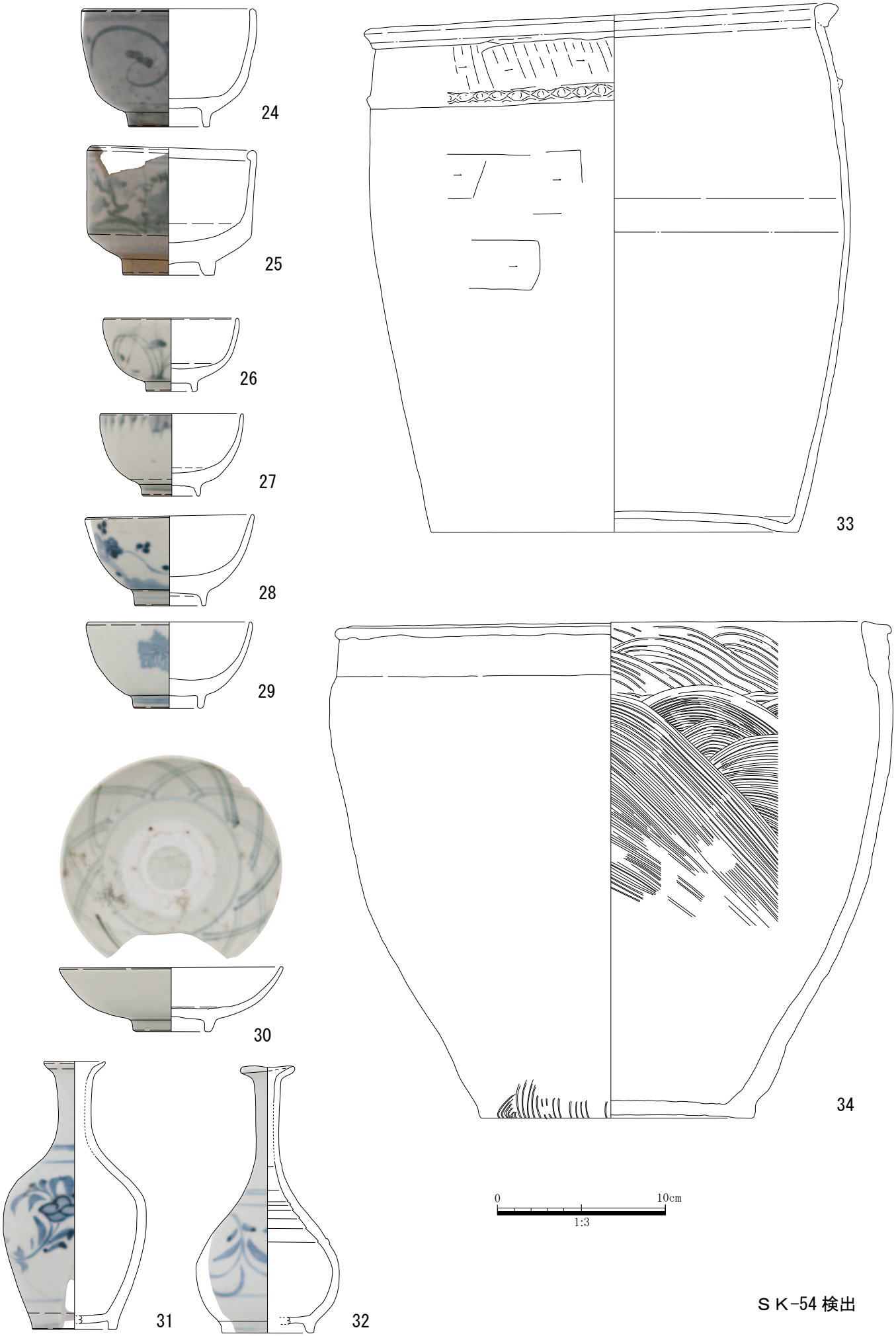
No.	遺構名	種　別	器　種	法　量(cm、g)				色調・胎土	釉　調	文様・装飾	技法の特徴	残　存	備　考
				口　径	器　高	底　径	その他						
35	SE1	磁器	小碗	(6.60)	3.85	高台径 2.80		明白色 微細な黒粒子を含む	透明釉、光沢あり、口縁部に鉄釉を施す	内面に菊文の型押し		1/2	
36	SE1	染付	碗	11.30	5.10	高台径 4.00		灰白	やや青みを帯びた透明釉、光沢あり 染付は明青灰色に発色		内:蛇の目状に釉をカキ取ったところに白～浅黄橙の微細な砂粒が付着 外:沈線?	3/5	
37	SE1	陶器	碗	(15.60)	7.10	5.40		明褐灰 黒粒子を少量含む	にぶい黄褐の透明釉		内:ナデ 外:回転ヘラケズリ、高台ケズリ出し	3/5	
38	SE1	陶器	皿	11.40	3.20	高台径 4.90		にぶい黄橙	オリーブ黄色の透明釉、光沢あり、内面貫入あり		内:釉を蛇の目状にカキ取る 外:回転ナデ、回転ヘラケズリ	1/2	
39	SE1	陶器	皿	11.40	3.50	高台径 3.80		暗灰黄	オリーブ灰色の透明釉、光沢あり、一部群青・薄水色の釉がかかる		内：蛇の目状に釉をカキ取る	2/3残存、口縁部1/2欠損	
40	SE1	陶器	香炉	10.00	7.18	高台径 4.90		内:暗灰 外:赤褐	オリーブ黒色の釉		内:回転ナデ 外:回転ヘラケズリ、糸切り	3/5	
41	SE1	陶胎染付	碗	11.30	7.50	高台径 4.65		灰 黒粒子を多く含み、内面に砂粒と小石を少量含む	オリーブ灰色の透明釉 高台内部は暗赤褐色に発色			3/4	高台に白砂が付着、一部赤褐色になっている
42	SE1	染付	小碗	7.86	4.49	高台径 3.10		灰白 黒粒子を多く含む	薄い明緑灰色の透明釉			口縁～体部一部欠損、高台一部欠損	
43	SE1	染付	碗	11.00	5.40	高台径 4.45		灰白、精良	緑がかった灰色の透明釉、光沢あり、染付は淡青色に発色		内：蛇の目状に釉カキ取る	2/3	
44	SE1	染付	仏飯具	7.20	5.20	4.20		にぶい橙	明緑灰色の透明釉、光沢あり 口縁部に青灰色の釉がかかる		底部：回転ヘラケズリ	2/3	
45	SE1	陶器	瓶	残存首部径 3.80	(22.50)+α	不明	最大径 13.00	橙	頸部:黒褐色の不透明釉、光沢あり 外面体部:にぶい褐色、刷毛目部分は黄褐～淡黄色に発色、光沢あり	外:刷毛目	内:回転ナデ	1/3	
46	SE1	陶器	壺		(13.20)+α	12.90	最大径 16.40	灰黄	内:暗褐色の不透明釉、やや光沢あり 外:体部黒色、底部褐色の不透明釉、やや光沢あり		内:タタキ	底部～体部	底部に0.5～2㎜程の砂粒が付着、径が楕円にゆがむ
47	SE1	磁器	人形	幅3.00	高2.69	厚5.30		灰白 細かい砂粒を少量含む	灰白色の透明釉、明黄褐色の半透明釉			完形	正面から尾までヒビが入っている
48	SE1	金属	キセル(首)	長6.00	幅1.15	厚1.03	重量 10.17	灰オリーブ				完形	
49	SFK1	陶器	皿	15.88	4.19	高台径 4.90		灰オリーブ 黒粒子を多く含み、気泡によるふくらみがある	灰白色の釉		内:目跡 外:回転ナデ、回転ヘラケズリ、高台は釉をカキ取る(一部赤茶色に発色)、ケズリ出し	2/3	
50	SFK1	金属	カンザシ	長 A21.32	幅 A1.40	厚 A0.32	重量 A34.02	灰オリーブ				完形?	
51	SFK1	金属		長 B1.55	幅 B1.55	厚 B0.93	重量 B2.80	緑灰					
52	SFK1	金属	柄	長 9.95	幅1.40	厚0.60	重量 30.82	明緑灰				完形	
53	カクラン	陶器	皿	8.80	1.65	3.30		にぶい黄橙	やや黄みがかった透明釉、光沢あり		内:目跡 外:回転ヘラケズリ	完形	口縁一部にスス付着
54	カクラン	陶器	碗	10.99	5.70	高台径 4.54		口縁:灰、高台:橙 黒粒子と小さい気泡を少量含む	黒褐色の半透明釉		内:回転ナデ、目跡 外:回転ヘラケズリ、高台ケズリ出し	口縁部が少し欠けるが、ほぼ完形	
55	SD2	磁器	皿	(12.40)	3.40	高台径 4.20		にぶい橙	透明釉、やや光沢あり		内：蛇の目状に釉をカキ取る 外:ヘラケズリ	1/2	
56	カクラン	陶器	ヒョウソク	6.00	4.20	5.10		灰黄	やや黄みがかった透明釉、光沢あり			4/5	
57	SD2	陶器	蓋		(2.00)+α	3.80	最大径 7.40	にぶい赤褐 細かい気泡を多く含む	灰白色の半透明釉		回転ナデ、回転糸切り	4/5残存、つまみと縁が欠損	
58	カクラン	陶器	蓋	6.40	5.20		最大径 9.74	黒、内:赤褐 白粒子と気泡を多く含む	暗オリーブ色とオリーブ黒色の半透明釉、にぶい光沢あり		内:回転ナデ	口縁部が少し欠けるが、ほぼ完形	
59	カクラン	陶器	蓋	8.70	3.30		最大径 11.20	暗灰		外:花形型押し	内外:回転ナデ	ほぼ完形、口縁部1/4欠損	
60	カクラン	陶器	ヒョウソク	4.80	6.30	4.80		明黄褐、橙	釉が濃い部分は暗赤褐色(5YR3/2)、薄い部分はにぶい赤褐色(5YR4/3)に発色		回転糸切り	完形	
61	カクラン	陶器	鉢	18.80	9.40	高台径 7.85		明黄褐 小さい気泡を少量含む	明黄褐色の透明釉、光沢あり		内:回転ナデ、目跡 外:回転ヘラケズリ	4/5	口縁部は緩やかな八角形
62	カクラン	陶器	鉢	17.51	10.90	7.60		浅黄橙 細かい砂粒を含む	オリーブ黄色、赤褐色の透明釉、内面は光沢あり		内:回転ナデ 外:飛びカンナ、回転ヘラケズリ	9/10	
63	カクラン	陶器	瓶		(9.60)+α	高台径 6.10	最大径 9.55	にぶい橙～明褐	黒色の不透明釉、やや光沢あり		内:回転ナデ	2/3	
64	カクラン	陶器	瓶	2.10	(13.48)+α	高台径 (5.60)	最大径 9.00	赤	オリーブ黒色の釉		外：回転ヘラケズリ	注口と取っ手が欠けるが、ほぼ完形	高台に砂が付着、体部には取っ手が付いていたと思われる
65	カクラン	陶器	壺	21.60	23.40	10.10		にぶい橙	全面に赤褐色の釉、光沢あり 釉だれは黒褐色と明青灰色、光沢あり	内外:釉だれ	内:目跡 外:底部釉カキ取り	底部全周～口縁部約1/2残存	
66	カクラン	染付	碗	7.50	5.60	高台径 3.80		灰白、精良	やや黄みを帯びた灰白色の透明釉、光沢あり 染付はオリーブ黒色に発色			完形	
67	カクラン	染付	碗	9.40	5.60	高台径 3.90		灰白、精良	やや青みがかった透明釉、光沢あり 染付は淡青色に発色			2/3残存、口縁部1/2欠損	
68	カクラン	染付	碗	(10.00)	5.30	高台径 (4.30)		灰白	青みがかった透明釉、光沢あり 染付は淡青色に発色	コンニャク印		1/2	
69	カクラン	染付	碗	12.65	8.70	高台径 6.48		にぶい赤褐 口縁部表面に細かい砂粒を含む	薄い明緑灰色の透明釉	高台外部に○×文、高台内部に「富貴長春」の銘		9/10残存、上部一部欠損	高台に少量の砂付着
70	カクラン	染付	皿	8.80	2.31	高台径 4.65		明白色 細かい砂粒を少量含む	明白色の透明釉、光沢あり			4/5	
71	カクラン	染付	皿	(12.40)	3.30	高台径 6.20		灰白、精良	灰みがかったオリーブ色の透明釉、光沢あり 染付は暗いオリーブ色に発色	見込み五弁花		1/2	
72	カクラン	染付	皿	12.81	6.30	高台径 6.60		灰白、一部橙 黒粒子を多く含む	明灰白色の透明釉		内：蛇の目状に釉をカキ取る	2/3	
73	カクラン	陶器	皿	13.90	3.90	4.30		浅黄橙、一部橙 細かい黒粒子を含む	明緑色の透明釉、光沢あり		内:蛇の目状に釉をカキ取る(赤茶色に発色)	2/3	
74	カクラン	石製品	硯	長(6.20)+α	幅5.90	厚1.15	重量 58.0	黒				2/3	



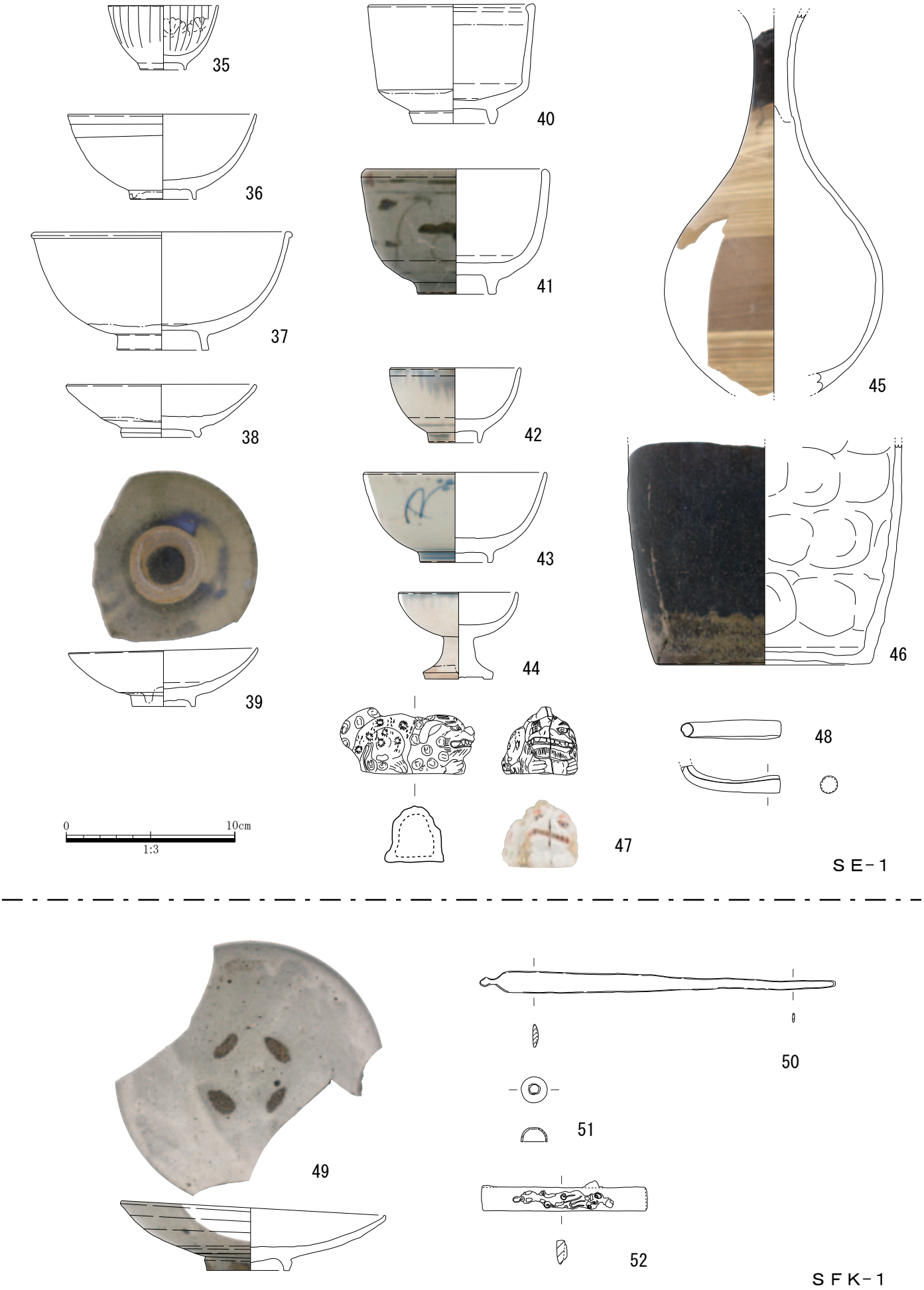
第22図　25次調査出土図化遺物１（Ｓ＝1/3）



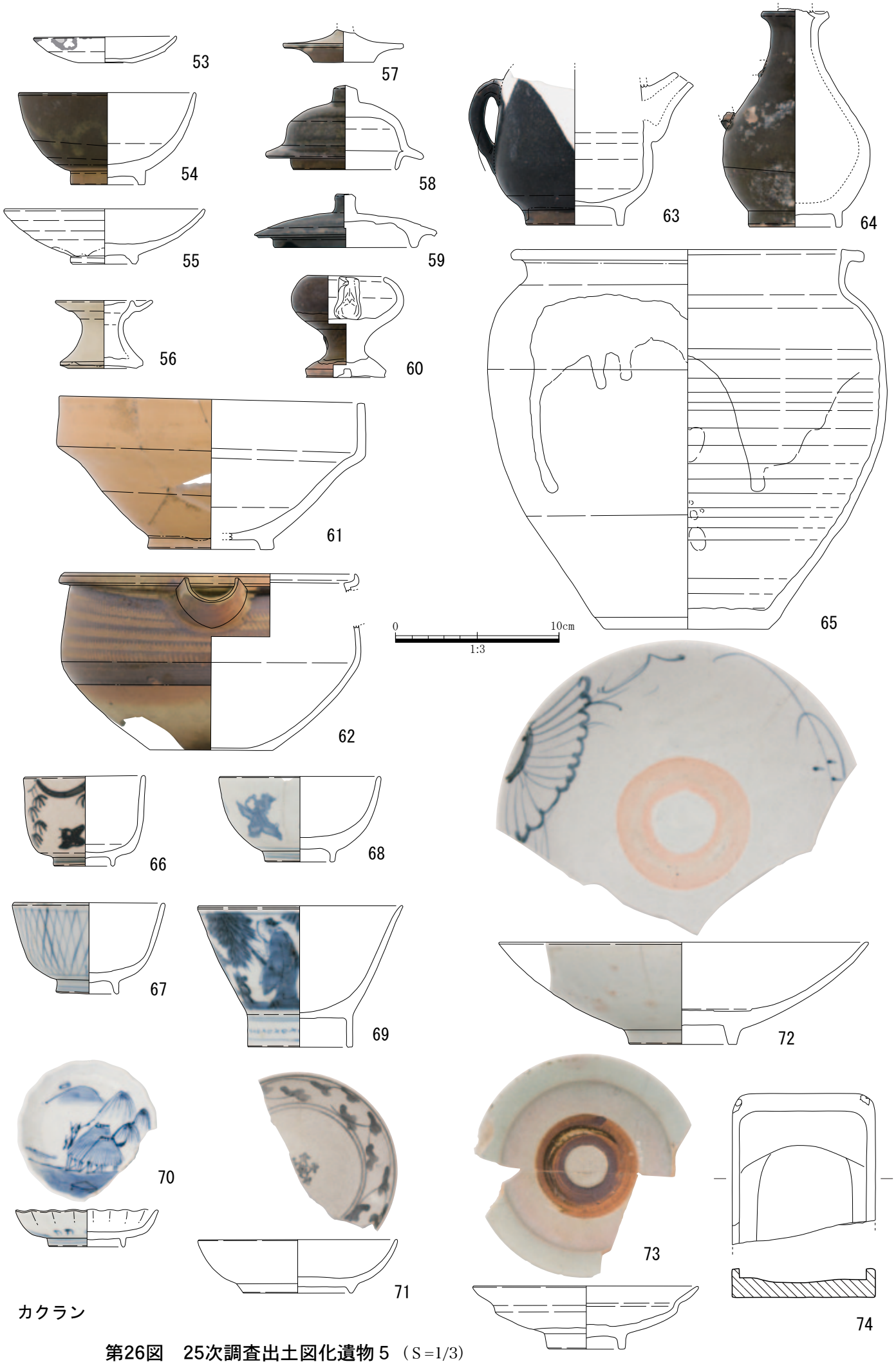
第23図　25次調査出土図化遺物２（S＝1/3）



第24図　25次調査出土図化遺物３（S＝1/3）



第25図　25次調査出土図化遺物４（S＝1/3）



第26図　25次調査出土図化遺物５（S＝1/3）

２　26次調査

（１）調査の概要（第27図）

市道新設範囲について調査対象地とし、江戸時代の整地層を確認した。遺構は廃棄土坑、火災処理土坑、柱穴などで、遺物は陶磁器・土師器などが出土した。検出面とした面の標高は4.1 ～ 4.2ｍである。調査面積は274㎡、遺物の総量はコンテナ10箱である。

（２）おもな遺構

ＳＫ- ２（第28図）

カクラン、ＳＫ-5、8、23に切られる大型の土坑である。平面形は楕円形を呈すると推測する。長軸で3.4＋αｍ、短軸で1.8＋αｍを測る。底面の標高は最深部で3.74ｍである。断面形は垂直に掘り込まれている。遺物は第36図１のほか、中国製青磁、土師器、陶器、染付破片が出土している。

ＳＫ-4a（第29図）

ＳＫ-4bを切る。平面形は隅丸の正方形である。一辺が1.1ｍを測り、底面の標高は4.1ｍである。土師器、染付破片が出土している。

ＳＫ-4b（第30図）

カクランとＳＫ-4aに切られる。平面形は楕円形を呈する。長軸1.54ｍ、短軸1.12ｍを測る。底面の標高は3.98ｍである。土師器、陶器、染付破片が出土している。

ＳＫ-7（第31図）

ＳＫ-16を切る。平面形は隅丸の長方形を呈する。長軸1.04ｍ、短軸0.88ｍを測る。底面の標高は4.12ｍである。

ＳＫ-12c（第32図）

ＳＫ-12eに切られる。平面形は円形か長方形であると推測する。3.18×1.08＋αｍ（調査区外）を測る。底面の標高は最深部で3.63ｍである。断面形は二段の掘り込みである。一段目は緩やかな掘り込みで、二段目は垂直に掘り込む。土師器、陶器、染付破片が出土している。

ＳＫ-13（第33図）

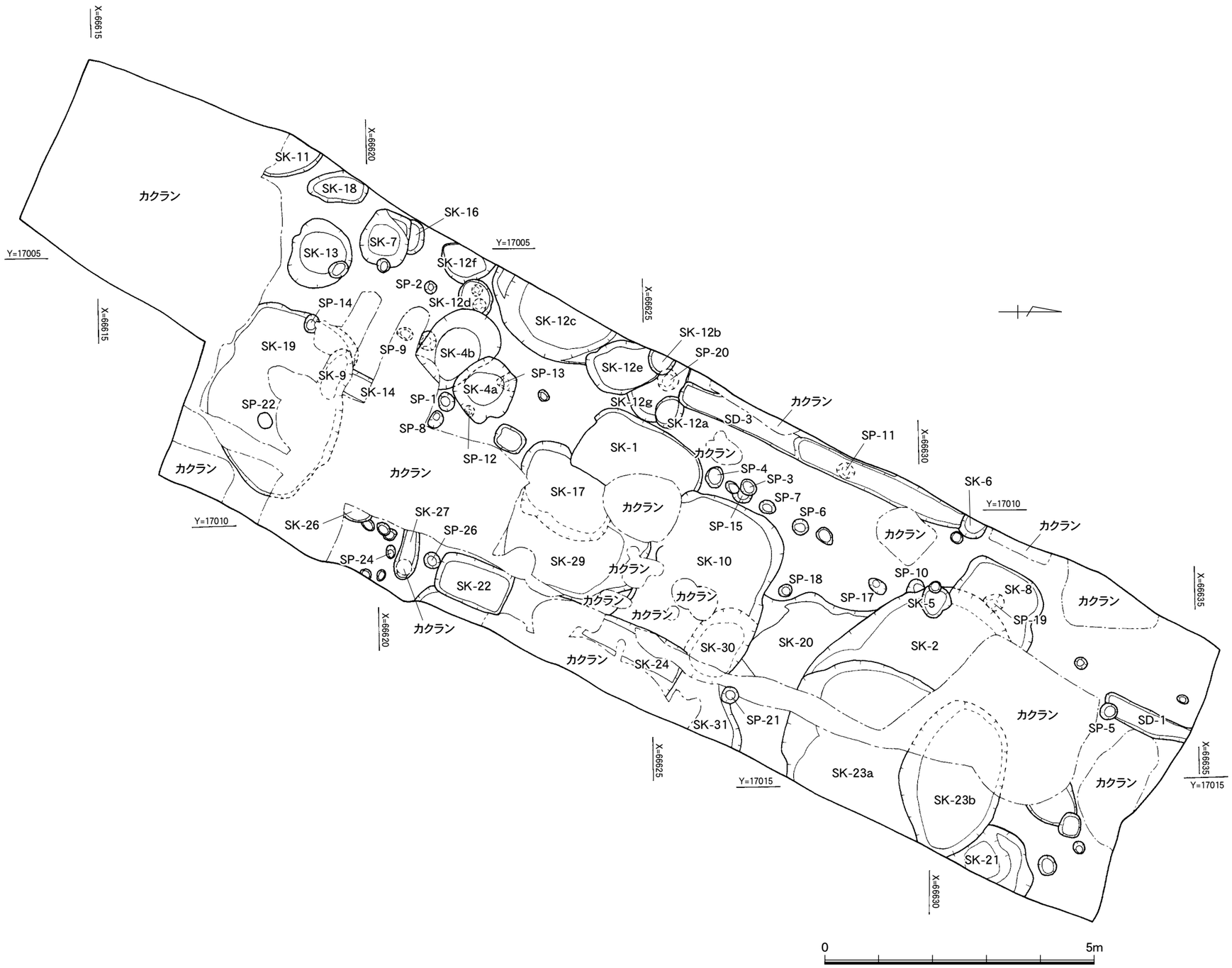
柱穴に切られる。平面形は不整円形である。1.26×1.18ｍを測る。底面の標高は最深部で4.05ｍである。断面形は緩やかに立ち上がる。

ＳＫ-17（第34図）

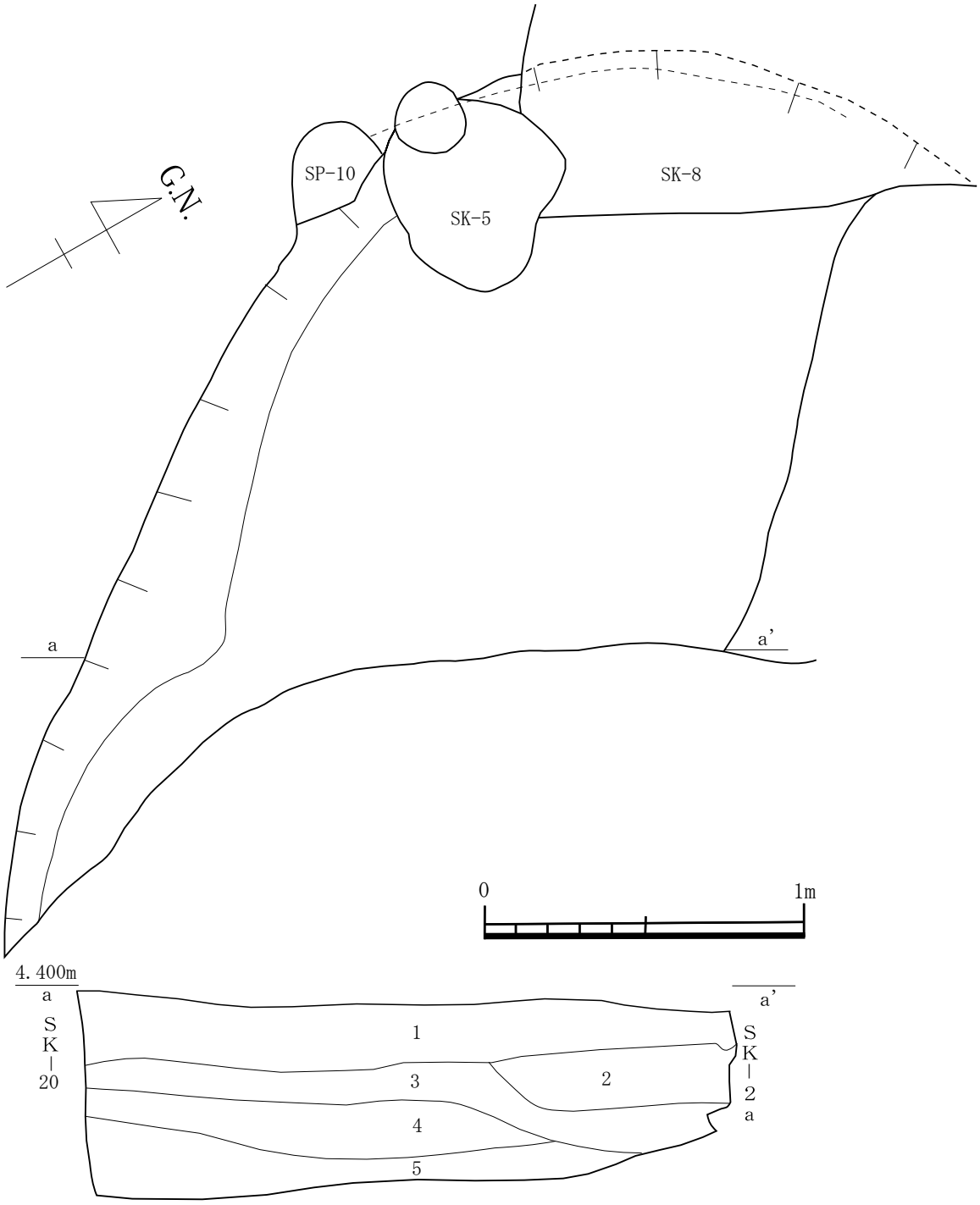
ＳＫ-１、カクランに切られるが、平面形は隅丸長方形に復元されるであろう。２×1.26ｍを測る。底面の標高は最深部で3.67ｍである。第36図８のほか陶器、染付破片が出土している。

ＳＫ-22（第35図）

平面長方形を呈し、規模は1.38×0.82ｍを測る。底面の標高は最深部で4.05ｍである。断面形は垂直な掘り込みで底面は平坦である。堆積状況から、一括で埋め戻されたと考えられる。第37図14～17のほか、土師器、陶器、染付破片が出土している。

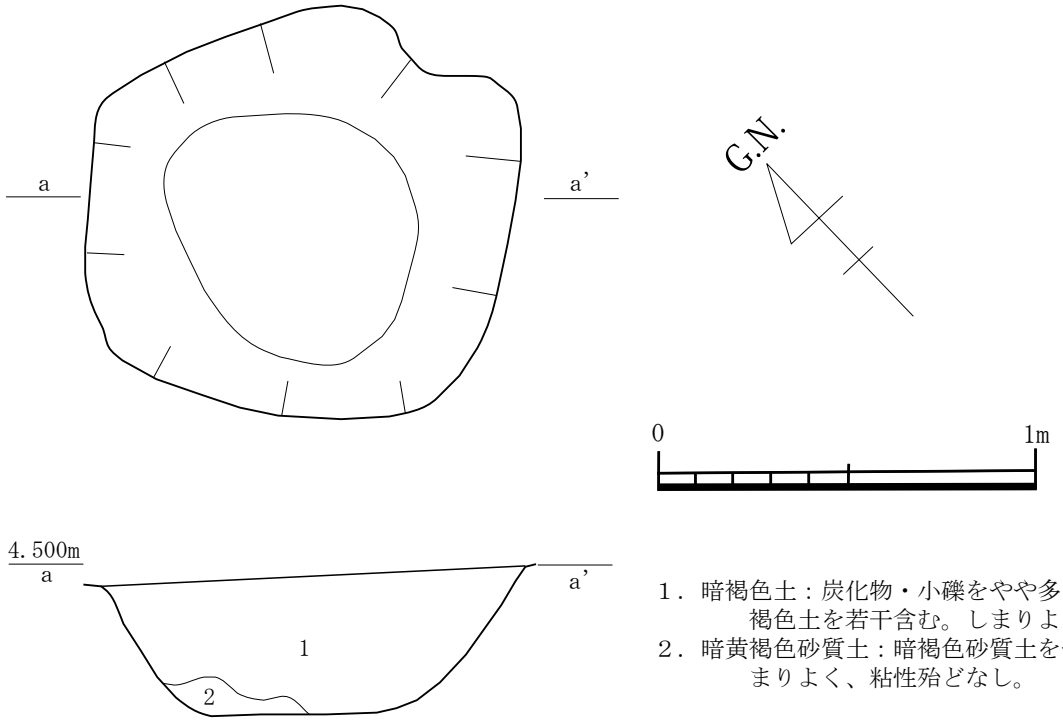


第27図　26次調査区遺構全体図（S =1/80）



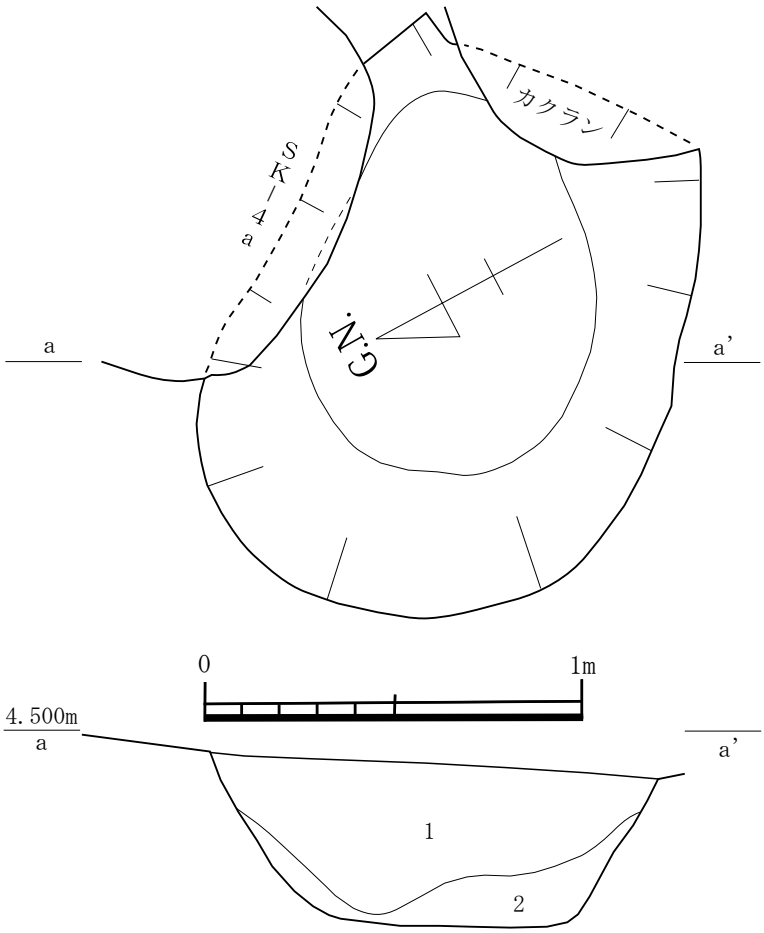
１．暗褐色土：小礫を多く、炭化物・中礫を若干含む。しまりよく、粘性殆どなし。
２．黒褐色土：中礫を多く、炭化物を若干含む。しまりよく、粘性殆どなし。
３．暗黄褐色土：黄褐色土ブロックを多く、炭化物・小礫を若干、焼土を僅かに含む。
４．暗黄褐色土：大礫・黄褐色土ブロックをやや多く、炭化物を若干含む。しまりよく、粘性殆どなし。
５．暗褐色土：黄褐色土ブロックを多く、炭化物を若干、焼土を僅かに含む。しまりよく、粘性殆どなし。

第28図　ＳＫ-２平・断面図　（S＝1/20）



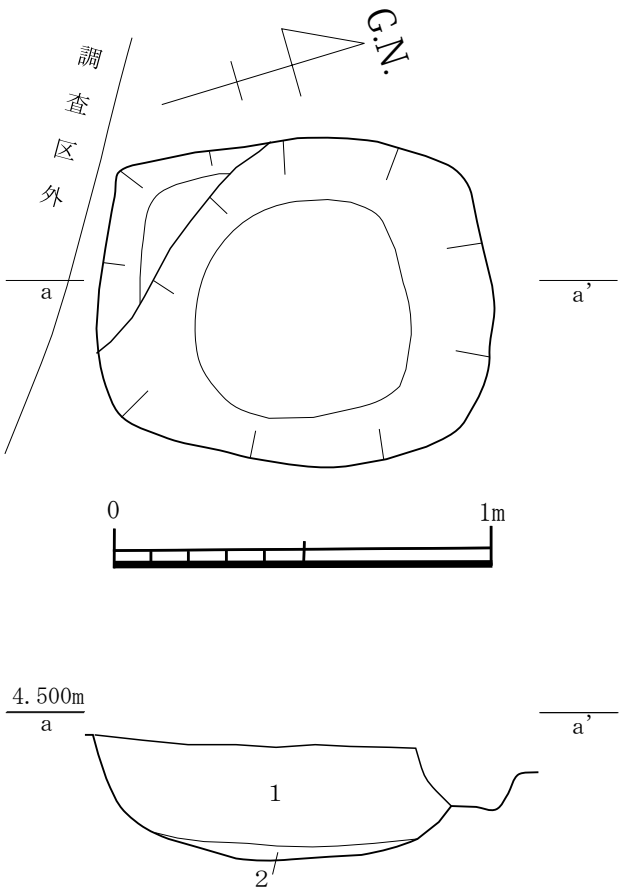
1．暗褐色土：炭化物・小礫をやや多く、中・大礫・灰褐色土を若干含む。しまりよく、粘性殆どなし。
2．暗黄褐色砂質土：暗褐色砂質土をやや多く含む。しまりよく、粘性殆どなし。

第29図　ＳＫ-４ａ平・断面図（S=1/20）



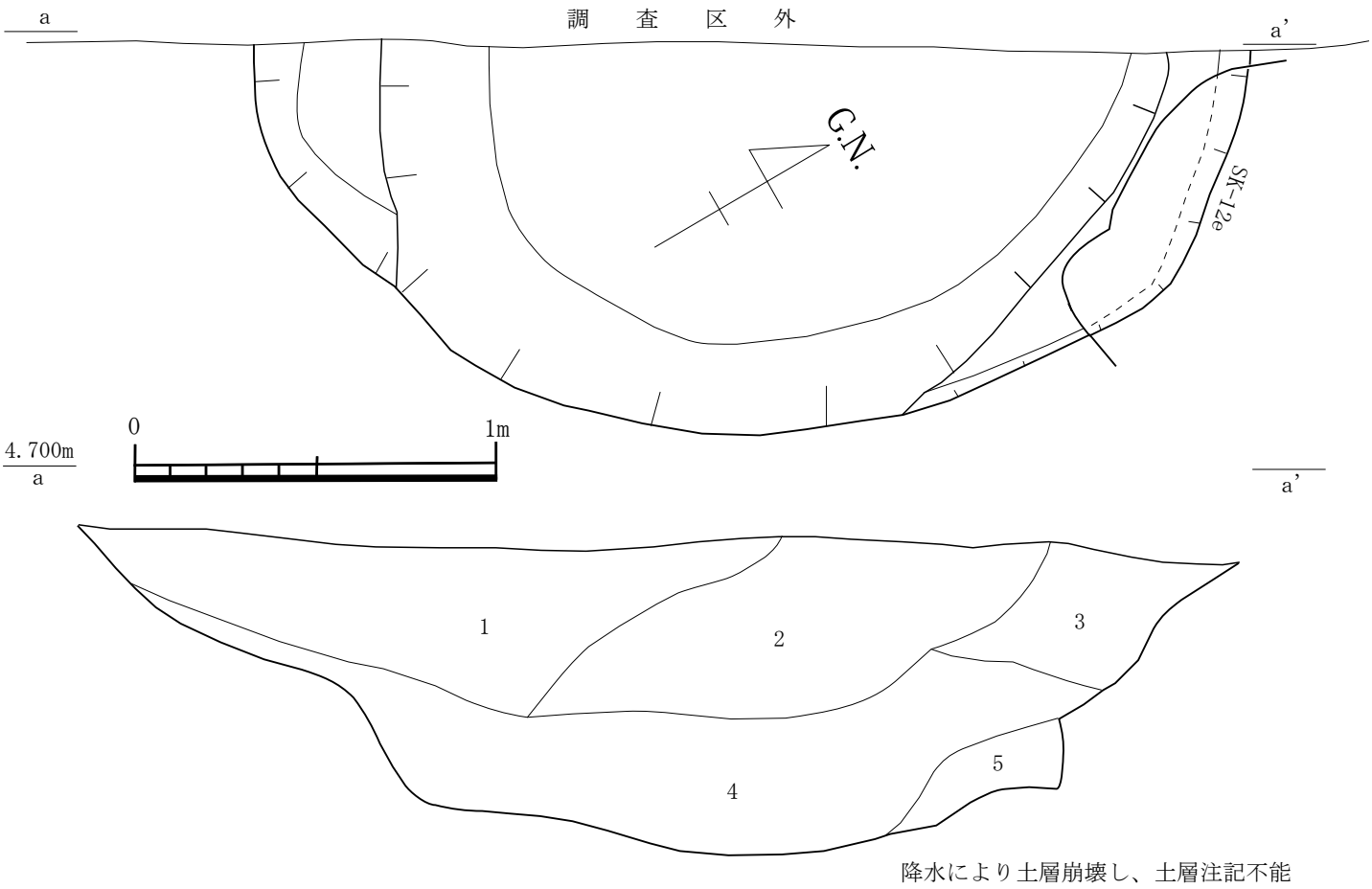
1．褐色土：炭化物を多く、黄褐色土ブロック・焼土を僅かに含む。しまりよく、粘性余りなし。
2．暗灰褐色砂質土：黄褐色土ブロックを多く、炭化物を若干含む。しまりよく、粘性殆どなし。

第30図　ＳＫ-４ｂ平・断面図（S=1/20）

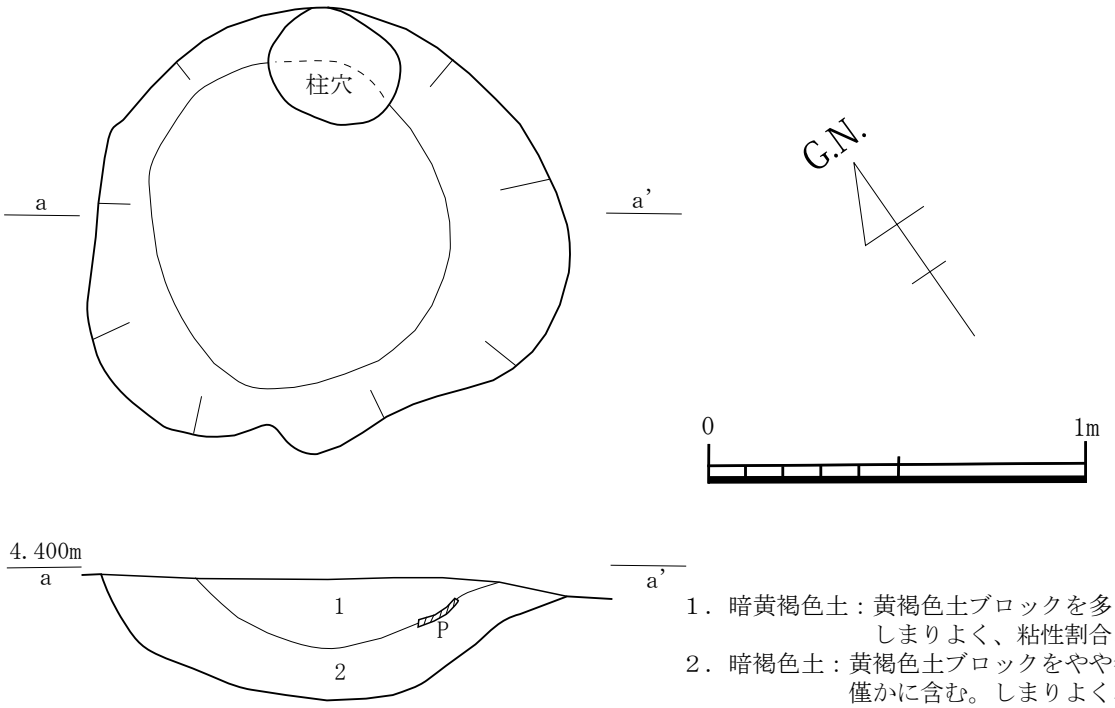


1．暗褐色土：上辺に灰褐色土ブロックを多く、鉄分・黄褐色土ブロック・炭化物を若干含む。しまりよく、粘性ややあり。
2．暗黄灰褐色砂質土：黄褐色土ブロックを若干含む。しまりよく、粘性ややあり。

第31図　ＳＫ-７平・断面図（S=1/20）

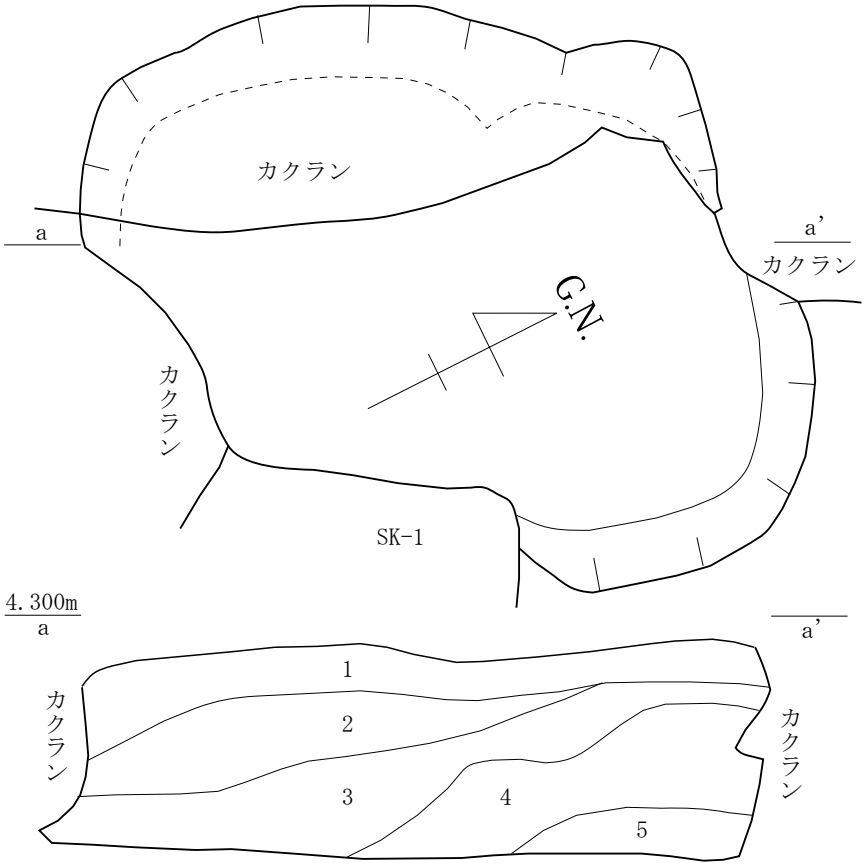


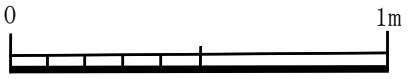
第32図　ＳＫ-12ｃ平・断面図（S=1/20）



１．暗黄褐色土：黄褐色土ブロックを多く、炭化物を若干含む。しまりよく、粘性割合あり。
２．暗褐色土：黄褐色土ブロックをやや多く、炭化物・中礫を僅かに含む。しまりよく、粘性ややあり。

第33図　ＳＫ-13 平・断面図（S=1/20）





1．暗褐色土：黄褐色土ブロックを多く、
炭化物・焼土を僅かに含む。
しまり粘性余りなし。

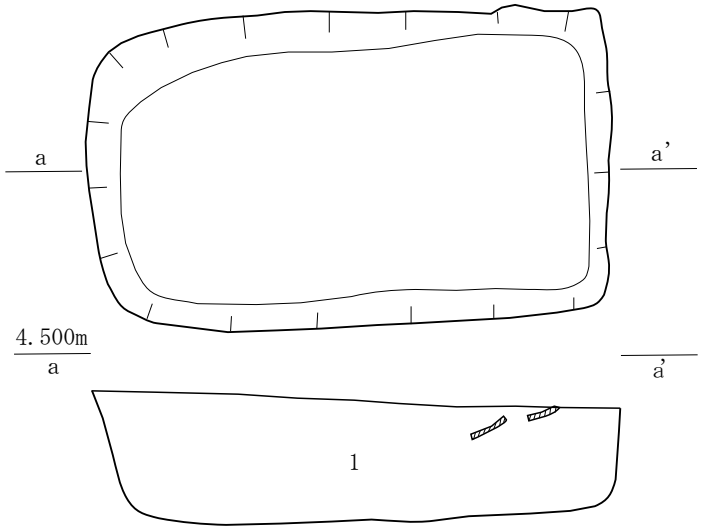
2．暗褐色土：黄褐色土ブロック、
炭化物をやや多く、
焼土を僅かに含む。
しまりよく、粘性余りなし。

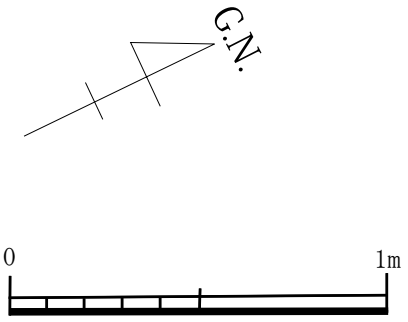
3．暗褐色土：黄褐色土ブロックを非常に多く、
炭化物を僅かに含む。しまりよく、
粘性ややあり。

4．暗褐色土：黄褐色土ブロックをやや多く、
炭化物を若干、焼土を僅かに含む。
しまりよく、粘性ややあり。

5．暗褐色土：黄褐色土ブロックを多く、
炭化物を若干含む。
しまりよく、粘性ややあり。

第34図　ＳＫ-17 平・断面図（S=1/20）





1．暗褐色土：炭化物を多く、小礫を若干含む。しまりよく、
粘性ややあり。

第35図　ＳＫ-22 平・断面図（S=1/20）

表４　26次調査遺構観察表

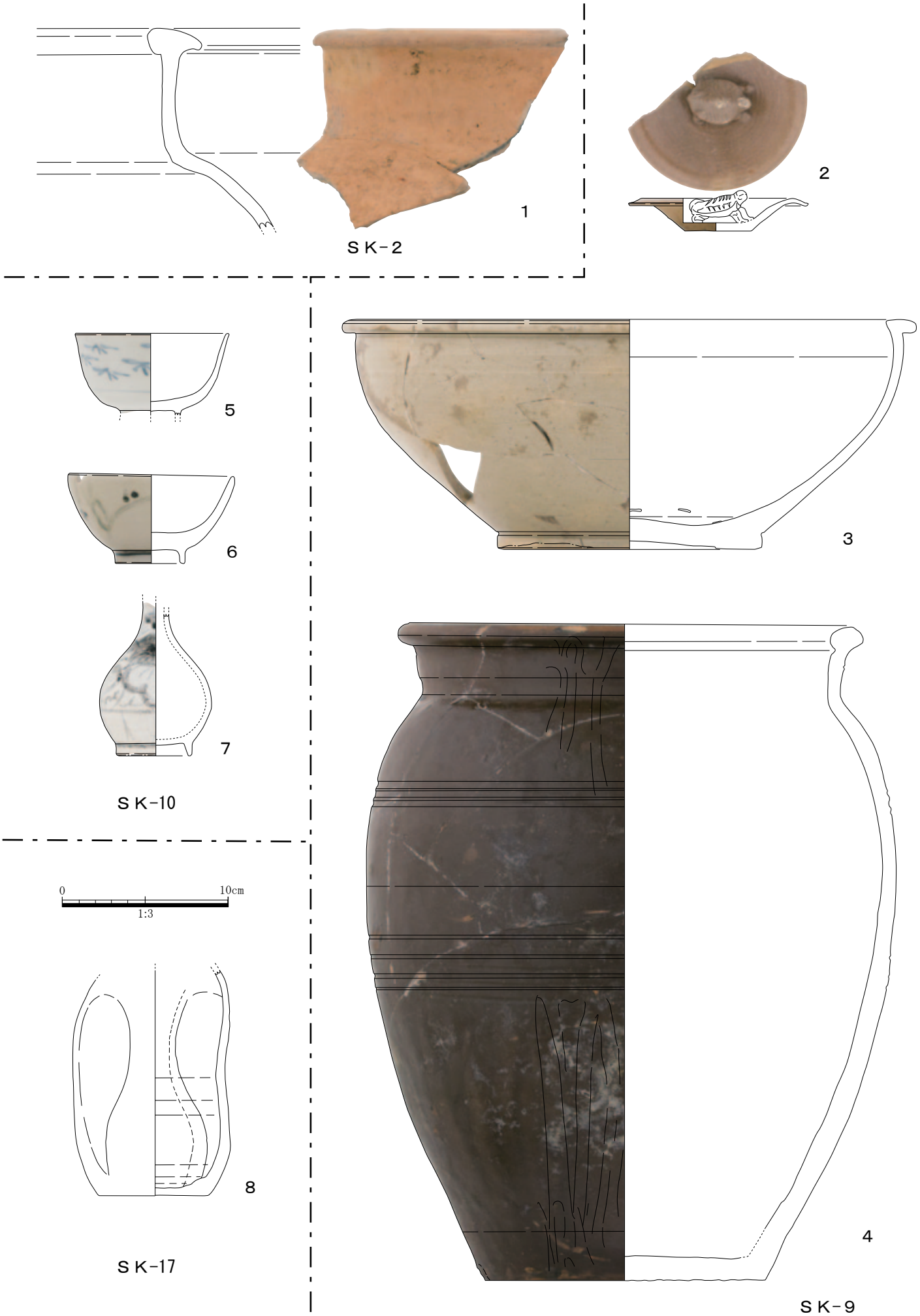
遺構							遺物	
種別	番号	平面形	規模(m)			備考	内容	時期
			長軸	短軸	標高			
SK	1	長方形	2.26	1.36+α	4.245	SK10、カクランに切られる	土師器・中国製青磁	
	2	楕円形?	2+α	1.88+α	3.675	SK5、8、23aに切られる	中国製青磁・土師器・陶器・染付	
	4a	隅丸正方形	1.1		4.1		土師器・染付	
	4b	楕円形	1.54	1.12	3.98	SK4a、カクランに切られる	土師器・陶器・染付	
	5	楕円形	0.6	0.56	3.730	調査区外へ延びる	土師器・陶器・染付	
	6	楕円形	0.48	0.36	4.200		土師器・陶器・染付	
	7	長方形	1.04	0.9	4.035	カクランに切られる		
	8	長方形?	1.74	1.24+α	4.235		色絵	
	9	楕円形?	1+α	0.52+α	3.785	カクランに切られる	土師器・陶器・染付	19世紀
	10	隅丸長方形	3.22	2.2	3.635	カクランに切られる、調査区外へ延びる	土師器・陶器・染付・瓦	19世紀
	11	楕円形	0.9+α	0.7+α	4.395		染付・戸車	
	12a	楕円形	0.6	0.5	4.245	SD3に切られる	土師器・陶器・染付・青磁	18世紀後半
	12b	楕円形?	0.52	0.38+α	4.170	調査区外へ延びる		
	12c			0.44+α				
	12d	楕円形	0.64	0.58+α	4.250			
	12e	不整形	1.22+α	0.96	4.135	SK12bに切られる		
	12f	楕円形	1	0.64+α	4.010	SK12dに切られる		
	12g	楕円形?	1.24	0.78+α	4.140	SK12a、b、e、SD3に切られる		
	13	楕円形?	1.28	1.2	4.400		土師器・陶器・染付	
	14	?	0.52	0.44+α	4.210	カクランに切られる		
	16	楕円形	0.62	0.28+α	4.350	SK7に切られる		
	17	不整形	2	1.26+α	3.625	SK1、カクランに切られる	陶器・染付	
	18	楕円形	1.12	0.6	4.285	調査区外へ延びる	陶器	
	19	長方形?	3.36	2.56	3.720	カクランに切られる	土師器・陶器・染付	
	20	不整形	2.28	1.46+α			土師器・陶器・染付	19世紀
	21	円形?	1.42+α	0.96+α	3.625		土師器・陶器・染付	
	23a	隅丸長方形?	2.7+α	2.28+α	3.735	SK23bに切られる、調査区外へ延びる	陶器・染付・色絵・瓦	
	23b	楕円形	2.8+α	1.9	3.505	カクランに切られる		
	24	?	1.72+α	0.64+α	3.585	SK10、カクランに切られる	陶器・染付	18世紀後半
	26	楕円形?	0.58	0.56+α	4.195	調査区外へ延びる	陶器	
	27	楕円形?	1.06	0.42	4.270			
	29	長方形	2.72	1.52+α	3.700	SK17、カクランに切られる	土師器・陶器・瓦	
	30	隅丸長方形	1.16+α	0.9	3.590	SK20、カクランに切られる		
	31	不整形	1.44+α	0.94+α	4.000	SP21、カクランに切られる		
SP	1	円形	0.36		4.015			
	2	円形	0.22		4.000			
	3	楕円形	0.3	0.2	4.350			
	4	楕円形	0.4	0.36	4.155			
	5	円形	0.32		4.090			
	6	楕円形	0.3	0.22	4.245			
	7	楕円形	0.32	0.24	4.195			
	8	楕円形	0.34	0.26	3.965			
	9	楕円形	0.3	0.24	4.145	SK2、8に切られる		
	10	?	0.3+α	0.26+α	3.985	SK2に切られる		
	11	楕円形	0.34	0.3	3.985	SD3に切られる		
	12	楕円形	0.2	0.14	4.120	SK4aに切られる		
	13	不整形	0.38	0.32	3.985	SK4aに切られる		
	14	楕円形	0.36	0.3	4.040	カクランに切られる		
	15	楕円形	0.4	0.28	4.070	SP3、小穴に切られる		
	16	楕円形	0.34	0.3	3.790	SK4bに切られる		
	17	楕円形	0.36	0.24	3.970	カクランに切られる		
	18	円形	0.24		3.980			
	19	楕円形	0.32	0.3	4.010	SK8、26に切られる		
	20	円形	0.3		4.000	SK12b、gに切られる		
	21	円形	0.3		3.970			
	22	円形	0.28		4.140			
	24	楕円形	0.24	0.2	4.165			
	26	円形	0.3		3.995			
SD	1		1.7	0.42	4.125	SP5に切られる		
	3		5.72+α	0.4	4.230	SK6、カクランに切られる	土師器・染付	

SK＝土坑　SP＝小穴、柱穴　SD＝溝状遺構

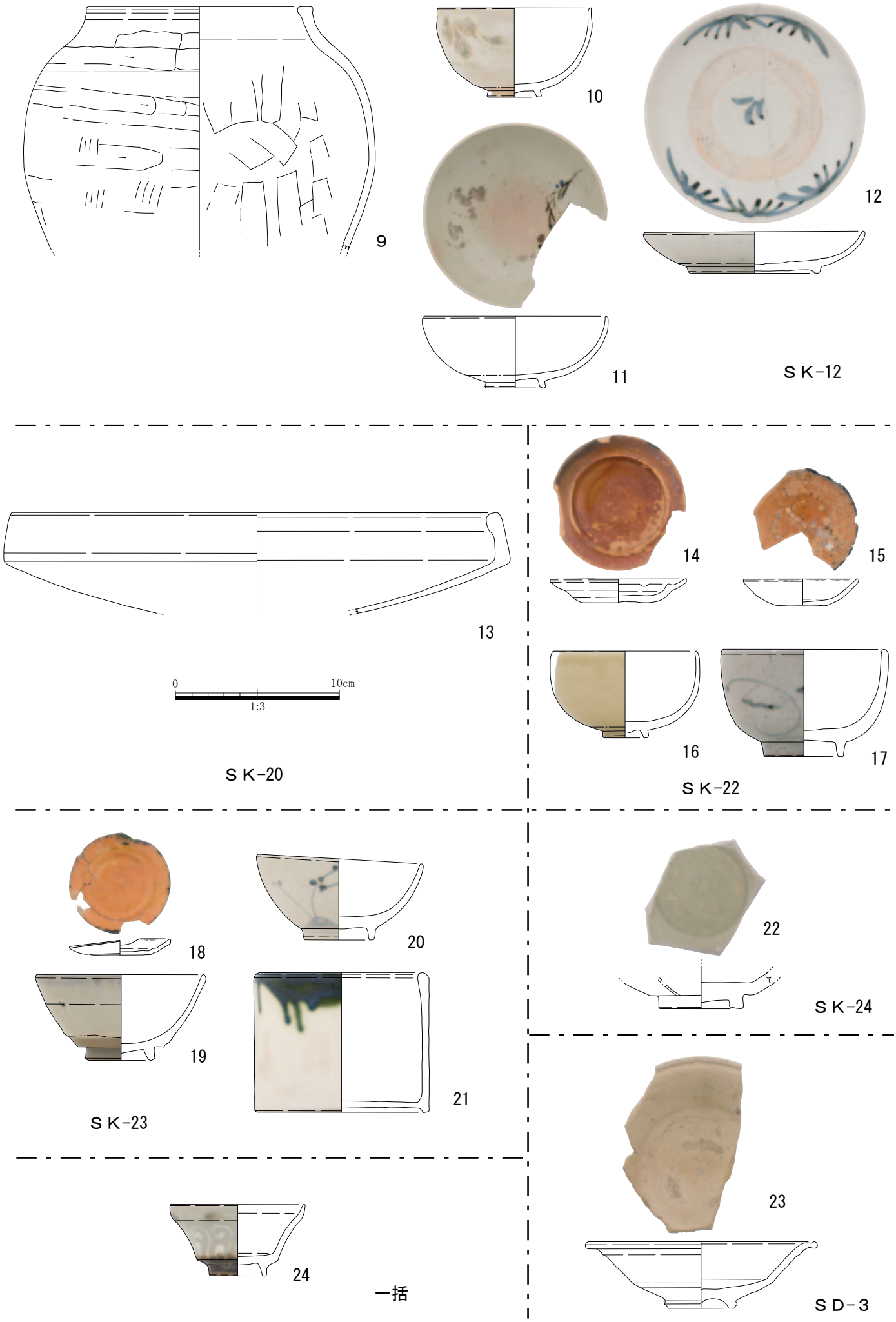
（3）出土遺物

表５　26次調査図化遺物観察表

No.	遺構名	種　別	器　種	法　量(cm、g)				色調・胎土	釉　調	文様・装飾	技法の特徴	残　存	備　考
				口　径	器　高	底　径	その他						
1	SK2	土師器	甕	不明	12.00			黄橙 微細な赤茶色の粒子と雲母を含む			内：回転ナデ 外：タテ方向ミガキ、ヨコ方向ミガキ	口縁部片	
2	SK9	陶器	蓋	10.90	2.48	4.00		浅黄橙 黒粒子を少量含み、小さい気泡を多く含む	にぶい橙色の透明釉		外：回転ナデ、回転ヘラケズリ	3/5	
3	SK9	陶器	鉢	34.80	14.00	高台径 15.20		浅黄 黒粒子を多く含む	薄いオリーブ黄色の透明釉、光沢あり		内：回転ナデ、目跡 外：回転ヘラケズリ、高台ケズリ出し	3/5	
4	SK9	陶器	甕	28.30	40.00	17.00		暗赤褐	黒褐色の透明釉、光沢あり 内面の底部～体部中ほどまで釉白濁	釉だれ	外：沈線	ほぼ完形	底部にところどころ釉が付着
5	SK10	染付	碗	9.38	(5.00)+α			灰白 小さい気泡を少量含む	明緑灰色の透明釉		内：回転ナデ、目跡 外：回転ナデ	口縁部と高台が欠けるが、ほぼ完形	
6	SK10	染付	碗	10.10	5.50	高台径 4.20		灰白	灰オリーブ色の透明釉、光沢あり 染付は黒ずんだオリーブ色に発色			3/5残存、口縁部1/2欠損	
7	SK10	染付	瓶		(9.40)+α	高台径 4.60	最大径 6.80	橙	灰白色の不透明釉、やや光沢あり 染付は灰色に発色			約4/5、口縁より下部は全て残存	
8	SK17	陶器	瓶	不明	(8.70)+α	6.70		褐灰 白粒子を少量含み、外面に細かい気泡を多く含む	暗赤褐色に発色、自然釉？		内：回転ナデ 外：ナデ、ヘラケズリ、回転ヘラ切り後ナデ	2/3残存、上部を大きく欠損	底部に刻印
9	SK12	土師器	甕	(13.80)	(15.0)+α			橙 白粒子を多く含み、大きめの気泡を多く含む			内：ナデ 外：ヨコナデ、回転ヘラケズリ、工具痕？	1/3	
10	SK12	陶器	碗	(9.50)	5.50	高台径 (3.40)		淡黄	黄みがかった灰白色の透明釉、光沢あり 色絵は緑色	外：色絵		1/2	
11	SK12	陶器	碗	11.40	4.40	高台径 3.40		にぶい黄橙	緑がかった灰白色の透明釉、光沢あり			2/3	京焼風
12	SK12	染付	皿	13.70	2.60	高台径 8.00		灰白、精良	灰白色の透明釉、光沢あり		内：蛇の目状に釉をカキ取る 外：高台釉をカキ取る	完形	
13	SK20	土師器	ホウロク	29.90	(6.20)+α			浅黄橙 1～3mm程の小石を少量含む			内：回転ナデ 外：ナデ、ヨコナデ、マメツ・被熱	3/5残存、底部が大きく欠損	
14	SK22	陶器	灯明皿	8.40	1.45	4.20		橙	赤褐色の塗料、光沢なし		内：回転ヘラケズリ 外：回転ナデ、糸切り	4/5残存、口縁部1/2欠損	
15	SK22	陶器	皿	(7.10)	1.65	3.15		橙	明赤褐色の塗料、光沢あり		内：回転ヘラケズリ 外：回転ナデ、糸切り	2/3残存、口縁部1/3残存	口縁部スス付着
16	SK22	陶器	碗	9.00	5.30	高台径 2.90		淡黄	浅黄色の透明釉、光沢・貫入あり			2/3残存、口縁部1/2欠損	
17	SK22	陶胎染付	碗	10.30	6.60	高台径 5.00		灰白、高台が赤茶色に変色 黒粒子を少量含み、気泡を多く含む	明緑灰色の透明釉				
18	SK23	陶器	皿	6.25	1.00	3.20		浅黄橙	橙色の塗料、一部光沢あり		内：回転ヘラケズリ 外：回転ナデ、糸切り	4/5残存、口縁部1/4欠損	口縁部スス付着
19	SK23	陶器	碗	10.50	5.30	高台径 4.30		灰オリーブ 細かい粒子を含む	緑みを帯びた灰白色の不透明釉、光沢あり 口縁部に灰オリーブ色の透明釉		高台回転ヘラケズリ	4/5残存、口縁部1/4欠損	萩焼
20	SK23	染付	碗	10.30	5.30	高台径 4.22		灰白 細かい黒粒子を多く含む	灰白色の半透明釉			3/5	
21	SK23	陶器	香炉	10.80	8.60	高台径 10.40		にぶい黄 細かい気泡を少量含む	釉が濃い部分は暗青灰色、薄い部分は灰白色		内：回転ナデ	1/2	高台内部に墨書あり
22	SK24	青磁	碗	不明	(2.30)+α	高台径 5.20		灰白	オリーブ灰色の透明釉、光沢あり	蓮弁文		底部片	
23	SD3	陶器	皿	(14.30)	4.10	高台径 4.10		にぶい黄橙	にぶい黄色の透明釉、光沢あり		内：目跡	1/3、口縁部1/6残存	唐津焼
24	一括	陶器	小碗	8.35	4.40	高台径 3.41		灰 小さい気泡を少量含む	明オリーブ灰色の釉、高台付近は暗赤褐色の釉		高台ケズリ出し	3/4	



第36図　26次調査出土図化遺物１（S＝1/3）

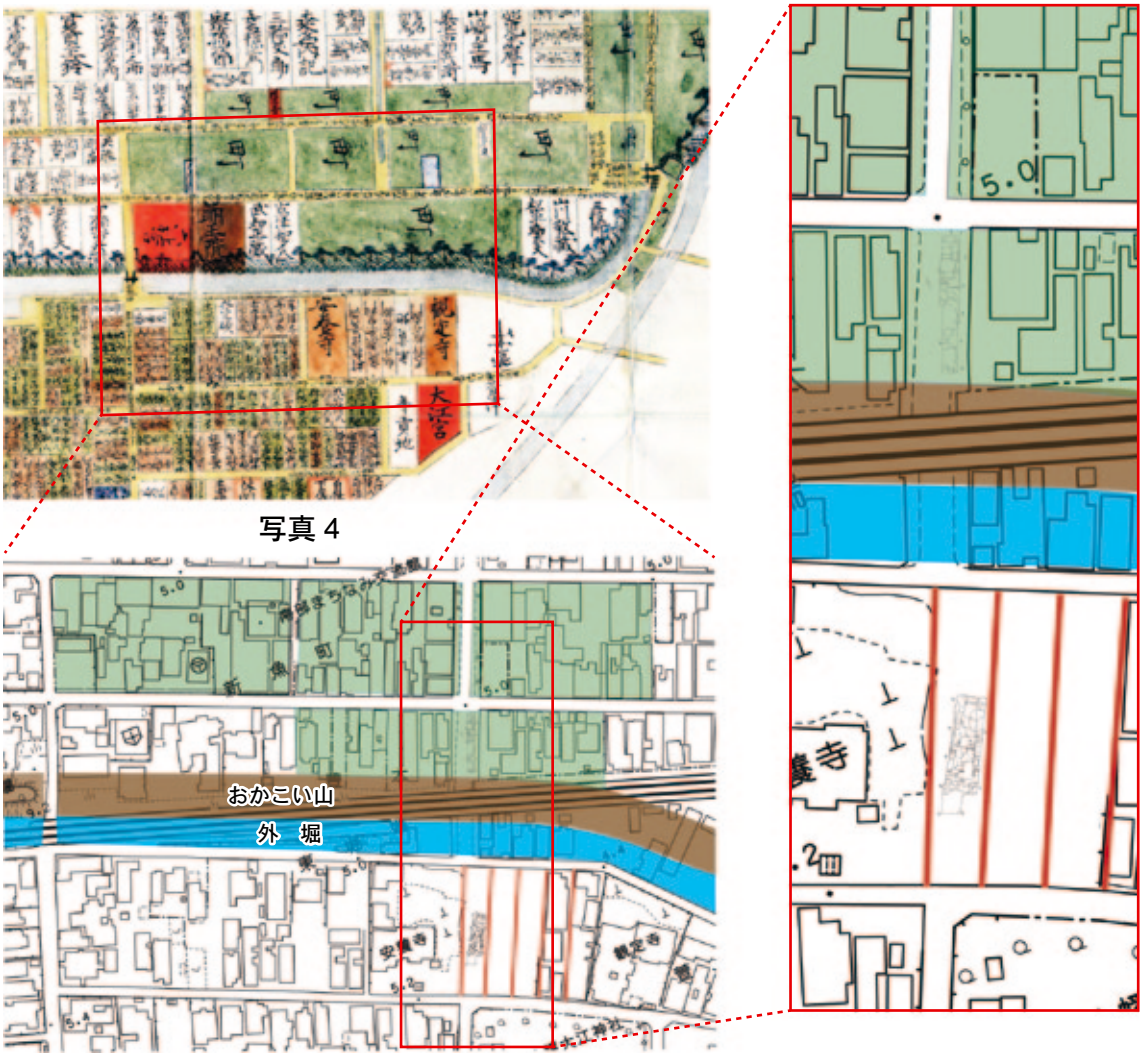


第37図　26次調査出土図化遺物２（Ｓ＝1/3）

第４章　ま　と　め

・絵図と調査区の位置関係について

第38図（第39図は拡大）は都市計画図に、写真４の絵図に描かれている地割を復元したものである。絵図の縮尺・表現と現在の地図をぴったりあわせることは難しいが、25次調査区は町屋（新魚町）に位置していると考えられる。また、安養寺と観定寺の間に５筆の武家地と年貢地が同じ広さで区画されているが、都市計画図にある両寺の間の土地を等間隔に５つに割った場合、26次調査区は村越源五兵衛の屋敷地に位置していると考えられる。ちなみに写真４を見ると村越源五兵衛の屋敷地は扶持人屋敷となっている。幕末の「奥平中津藩分限帳」には、村越源五兵衛は御供小姓の役に付き十三石二人扶持であったことが記載されている。享保２年（1735）には、屋敷地の広さが身分によって決められたが、これによるとこの屋敷地の広さは105坪であった。



第38図　　第39図

絵図と調査区の位置関係

・遺構配置について

城下町遺跡において、一つの敷地内の土地利用を明らかにするためには検出遺構の配置を精査する必要がある。

25次調査区では調査区の北半部分と南半部分に大きな差が見られる。北半では同一軸の長方形土坑と石列、井戸が見つかっている。対して南半の遺構は大型土坑が多く見つかっている。第38図を見ると北半が道に面しているので、敷地の表側にあたり家屋が建っていたことが想定される。南半はおかこい山に接する裏庭として利用され、大型の廃棄土坑を掘っていたのではないかと考えられる。また、北半の長方形土坑ＳＫ-18、25、ＳＦＫ-１は重複関係ＳＦＫ-１→ＳＫ-25→ＳＫ-18(新→旧）にあり、ほぼ同じ規模であることから、同様な機能を持っていた可能性がある。

26次調査区は敷地の中央部分にあたる。調査区の南北は現代のカクランが著しく、敷地内の土地利用を推測するのは難しい。現代の安養寺、観定寺の建物配置から見ると、大江神社側の道（南）に面して表があるので幕末も同様であったと考えることもできる。

・動物遺体について

25次調査区の中層ＳＫ-49から、馬と考えられる動物遺体が見つかっている。これまで中津城下町遺跡の発掘調査例では廃棄土坑に動物骨が混じって出土する例はあっても、今回のようにまとまって発見されるのは初めてである。とはいえ、土坑は検出面からの深さが10～12㎝で明らかに削平を受けた状況であったため、失われた骨は多いと考えられる。また、諸般の事情により写真記録しか残さなかったため（第21図下の写真を参考)、詳細な検討を加えることは難しいが可能な限り復元してみたいと思う。動物遺体は、頭蓋骨の一部（上顎と切歯が確認できる）と下顎骨（切歯、後臼歯が確認できる)、その下に肢体の骨が、長軸1.02ｍ、短軸0.72ｍの土坑底面で出土している。骨は80×50㎝の広さにまとまっている。写真からの判断になるが下顎骨は40㎝程度の長さになると思われ、ここから推測される体高（地面から肩までの高さ）は130～140㎝である。頭蓋骨・下顎骨の下の骨の出土状況、骨の範囲から、この大きさの馬が横たわった姿勢で埋められたとは考えられず、解体された状態で埋められた状況である。

参考文献
半田隆夫『中津藩歴史と風土』1989
三谷紘平『中津藩　シリーズ藩物語』2014
江戸遺跡研究会編『図説江戸考古学研究事典』2001
松井章編『動物考古学の手引き2001－2005年度独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所埋蔵文化財センター中期計画成果報告書』2006

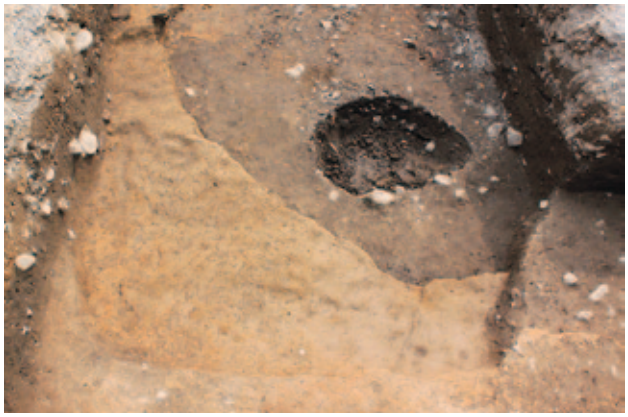
写　真　図　版

25次調査区北半（上層）北から

写真図版２

25次調査区南半（中層）南から

25次調査区南半（下層）南から



ＳＫ-47 完掘（北から）

ＳＥ-１堆積状況（南から）

ＳＦＫ-１堆積状況（西から）

SE-２北壁（南から）

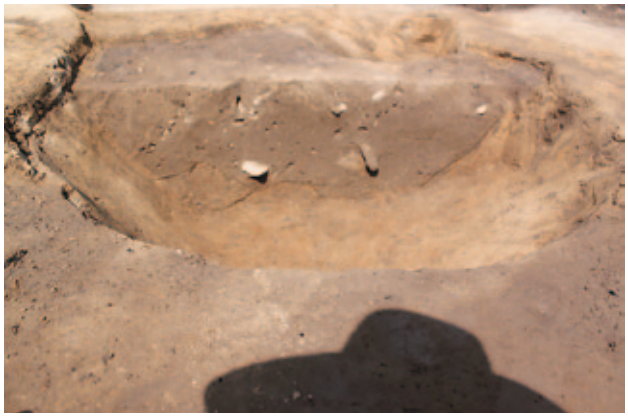
ＳＫ-48 完掘（南から）

石列（東から）

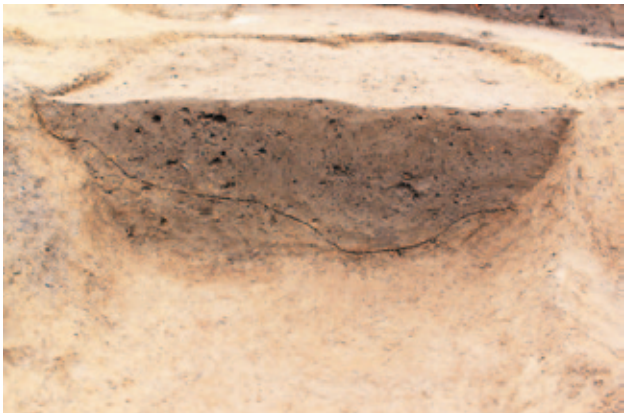
写真図版４

26次調査区西半（南から）

26次調査区東半（南から）



ＳＫ-４ａ堆積状況（南から）



ＳＫ-４ｂ堆積状況（東から）

ＳＫ-７堆積状況（南から）

ＳＫ-22 堆積状況（東から）

報　告　書　抄　録

ふりがな	なかつじょうかまちいせきじちょうさ
書名	中津城下町遺跡　25・26次調査
副書名	市道丸山町公園地線拡幅・市道丸山町大江神社西通り線新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	
シリーズ名	中津市文化財調査報告
シリーズ番号	第76集
編集者名	丸山　利枝
編集機関	中津市教育委員会
所在地	〒871-8501　大分県中津市豊田町14番地3　TEL 0979-22-1111
発行年月日	2016年9月30日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中津城下町遺跡（なかつじょうかまちいせき）	大分県中津市（おおいたけんなかつし） 1930、2041ほか	44203	203002	33° 35′ 04″	131° 11′ 00″	20140317 ～ 20140630	332㎡	市道拡幅・新設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中津城下町遺跡（なかつじょうかまちいせき）	城下町	近世	土坑 井戸跡 石列	土師器 陶器 磁器など	25次調査区では、馬と考えられる動物遺体を埋めた土坑が見つかっている。

要約	調査区は、新魚町の町屋（25次）と東堀端の扶持人屋敷（26次）にあたる。主な遺構の年代は18世紀～19世紀と考えられる。

中津城下町遺跡
25・26次調査
市道丸山町公園地線拡幅・市道丸山町大江神社西通り線新設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

中津市文化財調査報告 第76集

2016年９月30日

発行　中津市教育委員会
印刷　㈱川原田印刷社